

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号  
特許第3634695号  
(P3634695)

(45) 発行日 平成17年3月30日(2005.3.30)

(24) 登録日 平成17年1月7日(2005.1.7)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

G 0 6 F 3/12  
B 4 1 J 29/38

F I  
G O 6 F 3/12  
B 4 1 J 29/38

N  
Z

請求項の数 18 (全 37 頁)

(21) 出願番号	特願平11-313121	(73) 特許権者	000001007 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
(22) 出願日	平成11年11月2日(1999.11.2)	(74) 代理人	100076428 弁理士 大塚 康德
(65) 公開番号	特開2001-134409(P2001-134409A)	(74) 代理人	100093908 弁理士 松本 研一
(43) 公開日	平成13年5月18日(2001.5.18)	(74) 代理人	100101306 弁理士 丸山 幸雄
審査請求日	平成15年6月23日(2003.6.23)	(72) 発明者	中桐 孝治 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キ ヤノン株式会社内
		(72) 発明者	西川 智 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キ ヤノン株式会社内
		最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】 印刷制御方法および装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

印刷装置に送信すべき印刷データを生成する印刷制御装置における印刷制御方法であって、

アプリケーションにより生成された印刷文書を中間コード形式の印刷ジョブに変換し、該印刷文書のレイアウト情報と関連づけて一時保存する中間コード変換工程と、

前記中間コード変換工程で変換された複数の異なる印刷ジョブを結合して、1つの結合印刷ジョブを生成する結合工程と、

前記結合工程で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の構成を第一領域に表示し、該結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の前記レイアウト情報に基づいて各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を第二領域に表示する第一表示工程と、

前記第一表示工程で表示される画面において、前記結合工程で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷ジョブの順序の入れ替え操作または印刷文書のページの削除操作を行うジョブ操作工程と、

前記第一表示工程により該第二領域に表示された画像オブジェクトの内からいずれかの画像オブジェクトが指定された場合、指定された画像オブジェクトの論理ページに対応する印刷文書を他の印刷文書と識別可能に該第一領域に表示する第二表示工程と

を含むことを特徴とする印刷制御方法。

【請求項2】

前記第二表示工程においては、前記第一表示工程により前記第一領域に表示されている複数の印刷文書の構成から1つの印刷文書が指定された場合、指定された印刷文書と当該印刷文書の印刷ジョブに属するすべての論理ページの画像オブジェクトを他の印刷文書の印刷ジョブに属する論理ページの画像オブジェクトと識別可能に表示することを特徴とする請求項1記載の印刷制御方法。

【請求項3】

前記結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書のそれぞれのレイアウト情報を統一するレイアウト統一工程を更に含み、

前記第一表示工程は、統一されたレイアウト情報に基づいて、各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を前記第二領域 10

【請求項4】

印刷装置に送信すべき印刷データを生成する印刷制御装置であって、アプリケーションにより生成された印刷文書を中間コード形式の印刷ジョブに変換し、該印刷文書のレイアウト情報と関連づけて一時保存する中間コード変換手段と、

前記中間コード変換手段で変換された複数の異なる印刷ジョブを結合して、1つの結合印刷ジョブを生成する結合手段と、

前記結合手段で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の構成を第一領域に表示し、該結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の前記レイアウト情報に基づいて各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビ 20

ュー画像を第二領域に表示する第一表示手段と、前記第一表示手段で表示される画面において、前記結合手段で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷ジョブの順序の入れ替え操作または印刷文書のページの削除操作を行うジョブ操作手段と、

前記第一表示手段により該第二領域に表示された画像オブジェクトの内からいずれかの画像オブジェクトが指定された場合、指定された画像オブジェクトの論理ページに対応する印刷文書を他の印刷文書と識別可能に該第一領域に表示する第二表示手段とを含むことを特徴とする印刷制御装置。

【請求項5】

前記第二表示手段においては、前記第一表示手段により前記第一領域に表示されている複数の印刷文書の構成から1つの印刷文書が指定された場合、指定された印刷文書と当該印刷文書の印刷ジョブに属するすべての論理ページの画像オブジェクトを他の印刷文書の印刷ジョブに属する論理ページの画像オブジェクトと識別可能に表示することを特徴とする請求項4記載の印刷制御装置。 30

【請求項6】

前記結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書のそれぞれのレイアウト情報を統一するレイアウト統一手段を更に含み、

前記第一表示手段は、統一されたレイアウト情報に基づいて、各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を前記第二領域に表示することを特徴とする請求項3または4に記載の印刷制御装置。 40

【請求項7】

印刷装置に送信すべき印刷データをコンピュータにより生成させるためのプログラムを記録したコンピュータ可読の記録媒体であって、コンピュータにより、アプリケーションにより生成された印刷文書を中間コード形式の印刷ジョブに変換し、該印刷文書のレイアウト情報と関連づけて一時保存する中間コード変換工程と、

前記中間コード変換工程で変換された複数の異なる印刷ジョブを結合して、1つの結合印刷ジョブを生成する結合工程と、

前記結合工程で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の構成を第一領域に表示し、該結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の前記レイアウト情報に基づいて各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビ 50

ユー画像を第二領域に表示する第一表示工程と、  
前記第一表示工程で表示される画面において、前記結合工程で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷ジョブの順序の入れ替え操作または印刷文書のページの削除操作を行うジョブ操作工程と、

前記第一表示工程により該第二領域に表示された画像オブジェクトの内からいずれかの画像オブジェクトが指定された場合、指定された画像オブジェクトの論理ページに対応する印刷文書を他の印刷文書と識別可能に該第一領域に表示する第二表示工程と  
を実行させるプログラムを記録したことを特徴とするコンピュータ可読記録媒体。

【請求項 8】

前記第二表示工程においては、前記第一表示工程により前記第一領域に表示されている複数の印刷文書の構成から 1 つの印刷文書が指定された場合、指定された印刷文書と当該印刷文書の印刷ジョブに属するすべての論理ページの画像オブジェクトを他の印刷文書の印刷ジョブに属する論理ページの画像オブジェクトと識別可能に表示することを特徴とする請求項 7 記載のコンピュータ可読記録媒体。

10

【請求項 9】

前記結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書のそれぞれのレイアウト情報を統一するレイアウト統一工程を更に含み、  
前記第一表示工程は、統一されたレイアウト情報に基づいて、各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を前記第二領域に表示することを特徴とする請求項 7 記載のコンピュータ可読記録媒体。

20

【請求項 10】

印刷装置に送信すべき印刷データを生成する印刷制御装置における印刷制御方法であって、  
アプリケーションにより生成された印刷文書を中間コード形式の印刷ジョブに変換し、該印刷文書のレイアウト情報と関連づけて一時保存する中間コード変換工程と、  
前記中間コード変換工程で変換された複数の異なる印刷ジョブを結合して、1 つの結合印刷ジョブを生成するジョブ結合工程と、

前記ジョブ結合工程で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の構成を第一領域に表示し、該結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書のの前記レイアウト情報に基づいて各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を第二領域に表示する第一表示工程と、  
前記第一表示工程で表示される画面において、前記結合手段で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷ジョブの順序の入れ替え操作または印刷文書のページの削除操作を行うジョブ操作工程と、

30

前記第一表示工程により該第一領域に表示されている複数の印刷文書の構成からいずれかの印刷文書が指定された場合、指定された印刷文書と当該印刷文書の印刷ジョブに属するすべての論理ページの画像オブジェクトを他の印刷文書の印刷ジョブに属する論理ページの画像オブジェクトと識別可能に該第二領域に表示する第二表示工程と  
を含むことを特徴とする印刷制御方法。

【請求項 11】

40

前記第二表示工程においては、前記第一表示工程により前記第二領域に表示された画像オブジェクトの内からいずれかの画像オブジェクトが指定された場合、指定された画像オブジェクトの論理ページが属する印刷文書を他の印刷文書と識別可能に前記第一領域に表示することを特徴とする請求項 10 記載の印刷制御方法。

【請求項 12】

前記結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書のそれぞれのレイアウト情報を統一するレイアウト統一工程を更に含み、  
前記第一表示工程は、統一されたレイアウト情報に基づいて、各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を前記第二領域に表示することを特徴とする請求項 10 または 11 に記載の印刷制御方法。

50

## 【請求項 13】

印刷装置に送信すべき印刷データを生成する印刷制御装置であって、  
アプリケーションにより生成された印刷文書を中間コード形式の印刷ジョブに変換し、該印刷文書のレイアウト情報と関連づけて一時保存する中間コード変換手段と、  
前記中間コード変換手段で変換された複数の異なる印刷ジョブを結合して、1つの結合印刷ジョブを生成するジョブ結合手段と、  
前記ジョブ結合手段で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の構成を第一領域に表示し、該結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の前記レイアウト情報に基づいて各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を第二領域に表示する第一表示手段と、  
前記第一表示手段で表示される画面において、前記結合手段で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷ジョブの順序の入れ替え操作または印刷文書のページの削除操作を行うジョブ操作手段と、  
前記第一表示手段により該第一領域に表示されている複数の印刷文書の構成からいずれかの印刷文書が指定された場合、指定された印刷文書と当該印刷文書の印刷ジョブに属するすべての論理ページの画像オブジェクトを他の印刷文書の印刷ジョブに属する論理ページの画像オブジェクトと識別可能に該第二領域に表示する第二表示手段と  
を含むことを特徴とする印刷制御装置。

10

## 【請求項 14】

前記第二表示手段においては、前記第一表示手段により前記第二領域に表示された画像オブジェクトの内からいずれかの画像オブジェクトが指定された場合、指定された画像オブジェクトの論理ページが属する印刷文書を他の印刷文書と識別可能に前記第一領域に表示することを特徴とする請求項 13 記載の印刷制御装置。

20

## 【請求項 15】

前記結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書のそれぞれのレイアウト情報を統一するレイアウト統一手段を更に含み、  
前記第一表示手段は、統一されたレイアウト情報に基づいて、各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を前記第二領域に表示することを特徴とする請求項 13 または 14 に記載の印刷制御装置。

## 【請求項 16】

印刷装置に送信すべき印刷データをコンピュータにより生成させるためのプログラムを記録したコンピュータ可読の記録媒体であって、コンピュータにより、  
アプリケーションにより生成された印刷文書を中間コード形式の印刷ジョブに変換し、該印刷文書のレイアウト情報と関連づけて一時保存する中間コード変換工程と、  
前記中間コード変換工程で変換された複数の異なる印刷ジョブを結合して、1つの結合印刷ジョブを生成するジョブ結合工程と、  
前記ジョブ結合工程で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の構成を第一領域に表示し、該結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の前記レイアウト情報に基づいて各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を第二領域に表示する第一表示工程と、  
前記第一表示工程で表示される画面において、前記結合手段で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷ジョブの順序の入れ替え操作または印刷文書のページの削除操作を行うジョブ操作工程と、  
前記第一表示工程により該第一領域に表示されている複数の印刷文書の構成からいずれかの印刷文書が指定された場合、指定された印刷文書と当該印刷文書の印刷ジョブに属するすべての論理ページの画像オブジェクトを他の印刷文書の印刷ジョブに属する論理ページの画像オブジェクトと識別可能に該第二領域に表示する第二表示工程と  
を実行させるプログラムを記録したことを特徴とするコンピュータ可読記録媒体。

30

40

## 【請求項 17】

前記第二表示工程においては、前記第一表示工程により前記第二領域に表示された画像オ

50

プロジェクトの内からいずれかの画像オブジェクトが指定された場合、指定された画像オブジェクトの論理ページが属する印刷文書を他の印刷文書と識別可能に前記第一領域に表示することを特徴とする請求項 1 6 記載のコンピュータ可読記録媒体。

【請求項 1 8】

前記結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書のそれぞれのレイアウト情報を統一するレイアウト統一工程を更に含み、

前記第一表示工程は、統一されたレイアウト情報に基づいて、各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を前記第二領域に表示することを特徴とする請求項 1 6 または 1 7 に記載のコンピュータ可読記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、印刷制御方法および装置および媒体に関するもので、特にパーソナルコンピュータ等の情報処理とプリンタからなるシステムにおける印刷制御方法および装置および媒体に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、文書編集や画像編集のためのアプリケーションプログラムによって編集された文書あるいは画像といったデータを印刷する際に、実際に用紙上に印刷する前に、印刷されるイメージを画面上に表示して利用者に提示する印刷プレビュー機能が知られている。この印刷プレビュー機能は、アプリケーションプログラムに備えられている。

【0003】

また、アプリケーションで印刷指示した文書データをプリンタに出力せずにクライアント内に保持しておき、複数の文書データをまとめて1つのジョブとしてプリンタに送信する「まとめ印刷」機能を有するソフトウェアがある。

【0004】

「まとめ印刷」では、アプリケーションが生成した文書データをOSの描画手段には出力せずにEMFファイルとしてスプールしておき、その後ユーザにより印刷指示なされた場合に、スプールしているすべてのデータをOSの描画手段であるグラフィックエンジンに出力し、プリンタドライバに渡される。

このようにまとめ印刷では、アプリケーションにより生成されたデータをスプールしているため、アプリケーションのプレビュー機能をしようすることができず、ユーザはまとめられた印刷ジョブがどのように印刷されるのか認識するすべがなかった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来のようなまとめ印刷では、ユーザの印刷指示した際のプリンタドライバの設定で印刷データがプリンタドライバで生成されるため、アプリケーションにより出力されスプールされているジョブそれぞれについて異なる印刷設定をすることができない。

【0006】

そこで、プリンタドライバで設定されるページレイアウト等の情報をジョブ毎に持たせるために、OSの描画手段であるグラフィックエンジンにより出力されたデータに基づいてスプールしておく仕組みが考えられる。この仕組みでスプールしておけば、ジョブそれぞれが印刷設定を持っているため、ページレイアウトの異なったジョブを結合させることが可能となる。また、この仕組みでスプールされているジョブのプレビューを表示させることも考えられる。

【0007】

しかしながら、スプールされている複数のジョブをまとめて1つの結合ジョブを生成し、その結合ジョブのプレビューを表示させた場合、もとのジョブとそれぞれのページとの関係がよくわからなくなるという問題がある。そのために、プレビュー表示した状態でペー

10

20

30

40

50

ジやジョブに対して何らかの操作を行いたいと利用者が考えても、ジョブとページとの対応関係を利用者は把握できず、操作に支障をきたすこともあった。

【 0 0 0 8 】

本発明は上記従来例に鑑みて成されたもので、プレビュー表示の対象となっているジョブとプレビュー表示されているページとを、それらの間の対応を明瞭に示しつつ表示する印刷制御方法及び装置を提供することを目的とする。

【 0 0 0 9 】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために本発明は次のような構成からなる。すなわち、印刷装置に送信すべき印刷データを生成する印刷制御装置における印刷制御方法であって、アプリケーションにより生成された印刷文書を中間コード形式の印刷ジョブに変換し、該印刷文書のレイアウト情報と関連づけて一時保存する中間コード変換工程と、前記中間コード変換工程で変換された複数の異なる印刷ジョブを結合して、1つの結合印刷ジョブを生成する結合工程と、前記結合工程で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の構成を第一領域に表示し、該結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の前記レイアウト情報に基づいて各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を第二領域に表示する第一表示工程と、前記第一表示工程で表示される画面において、前記結合工程で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷ジョブの順序の入れ替え操作または印刷文書のページの削除操作を行うジョブ操作工程と、前記第一表示工程により該第二領域に表示された画像オブジェクトの内からいずれかの画像オブジェクトが指定された場合、指定された画像オブジェクトの論理ページに対応する印刷文書を他の印刷文書と識別可能に該第一領域に表示する第二表示工程とを含む。

更に好ましくは、前記第二表示工程においては、前記第一表示工程により前記第一領域に表示されている複数の印刷文書の構成から1つの印刷文書が指定された場合、指定された印刷文書と当該印刷文書の印刷ジョブに属するすべての論理ページの画像オブジェクトを他の印刷文書の印刷ジョブに属する論理ページの画像オブジェクトと識別可能に表示する。

更に好ましくは、前記結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書のそれぞれのレイアウト情報を統一するレイアウト統一工程を更に含み、前記第一表示工程は、統一されたレイアウト情報に基づいて、各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を前記第二領域に表示する。

【 0 0 1 0 】

あるいは、印刷装置に送信すべき印刷データを生成する印刷制御装置における印刷制御方法であって、アプリケーションにより生成された印刷文書を中間コード形式の印刷ジョブに変換し、該印刷文書のレイアウト情報と関連づけて一時保存する中間コード変換工程と、前記中間コード変換工程で変換された複数の異なる印刷ジョブを結合して、1つの結合印刷ジョブを生成するジョブ結合工程と、前記ジョブ結合工程で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の構成を第一領域に表示し、該結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書の前記レイアウト情報に基づいて各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を第二領域に表示する第一表示工程と、前記第一表示工程で表示される画面において、前記結合手段で生成された結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷ジョブの順序の入れ替え操作または印刷文書のページの削除操作を行うジョブ操作工程と、前記第一表示工程により該第一領域に表示されている複数の印刷文書の構成からいずれかの印刷文書が指定された場合、指定された印刷文書と当該印刷文書の印刷ジョブに属するすべての論理ページの画像オブジェクトを他の印刷文書の印刷ジョブに属する論理ページの画像オブジェクトと識別可能に該第二領域に表示する第二表示工程とを含む。

更に好ましくは、前記第二表示工程においては、前記第一表示工程により前記第二領域に表示された画像オブジェクトの内からいずれかの画像オブジェクトが指定された場合、指定された画像オブジェクトの論理ページが属する印刷文書を他の印刷文書と識別可能に前

10

20

30

40

50

記第一領域に表示する。

更に好ましくは、前記結合印刷ジョブに含まれる複数の印刷文書のそれぞれのレイアウト情報を統一するレイアウト統一工程を更に含み、前記第一表示工程は、統一されたレイアウト情報に基づいて、各印刷文書の論理ページの画像オブジェクトが各物理ページにレイアウトされているプレビュー画像を前記第二領域に表示する。

【 0 0 1 2 】

【 発明の実施の形態 】

以下、本発明を適用するのに好適である実施例について説明を行う。

【 0 0 1 3 】

< プリンタ制御システムの構成 >

図 1 は本発明の実施例を示すプリンタ制御システムの構成を説明するブロック図である。なお、本発明の機能が実行されるのであれば、単体の機器であっても、複数の機器からなるシステムであっても、LAN, WAN等のネットワークを介して接続がなされ処理が行われるシステムであっても本発明を適用できる。

【 0 0 1 4 】

同図において、ホストコンピュータ 3 0 0 0 は、ROM 3 のプログラム用 ROM あるいは外部メモリ 1 1 に記憶された文書処理プログラム等に基づいて図形、イメージ、文字、表（表計算等を含む）等が混在した文書処理を実行する CPU 1 を備え、システムバス 4 に接続される各デバイスを CPU 1 が総括的に制御する。また、この ROM 3 のプログラム用 ROM あるいは外部メモリ 1 1 には、CPU 1 の制御プログラムであるオペレーティングシステムプログラム（以下 OS）等を記憶し、ROM 3 のフォント用 ROM あるいは外部メモリ 1 1 には上記文書処理の際に使用するフォントデータ等を記憶し、ROM 3 のデータ用 ROM あるいは外部メモリ 1 1 には上記文書処理等を行う際に使用する各種データを記憶する。RAM 2 は、CPU 1 の主メモリ、ワークエリア等として機能する。

【 0 0 1 5 】

キーボードコントローラ（KBC）5 は、キーボード 9 や不図示のポインティングデバイスからのキー入力を制御する。CRT コントローラ（CRTC）6 は、CRT ディスプレイ（CRT）1 0 の表示を制御する。7 はディスクコントローラ（DKC）で、ブートプログラム、各種のアプリケーション、フォントデータ、ユーザファイル、編集ファイル、プリンタ制御コマンド生成プログラム（以下プリンタドライバ）等を記憶するハードディスク（HD）、フロッピーディスク（FD）等の外部メモリ 1 1 とのアクセスを制御する。プリンタコントローラ（PRTC）8 は、双方向性インタフェース（インタフェース）2 1 を介してプリンタ 1 5 0 0 に接続されて、プリンタ 1 5 0 0 との通信制御処理を実行する。

【 0 0 1 6 】

なお、CPU 1 は、例えば RAM 2 上に設定された表示情報 RAM へのアウトラインフォントの展開（ラスタライズ）処理を実行し、CRT 1 0 上での WYSIWYG を可能としている。また、CPU 1 は、CRT 1 0 上の不図示のマウ斯卡ーソル等で指示されたコマンドに基づいて登録された種々のウインドウを開き、種々のデータ処理を実行する。ユーザは印刷を実行する際、印刷の設定に関するウインドウを開き、プリンタの設定や、印刷モードの選択を含むプリンタドライバに対する印刷処理方法の設定を行える。

【 0 0 1 7 】

プリンタ 1 5 0 0 は、CPU 1 2 により制御される。プリンタ CPU 1 2 は、ROM 1 3 のプログラム用 ROM に記憶された制御プログラム等あるいは外部メモリ 1 4 に記憶された制御プログラム等に基づいてシステムバス 1 5 に接続される印刷部（プリンタエンジン）1 7 に出力情報としての画像信号を出力する。また、この ROM 1 3 のプログラム ROM には、CPU 1 2 の制御プログラム等を記憶する。ROM 1 3 のフォント用 ROM には上記出力情報を生成する際に使用するフォントデータ等が記憶され、ROM 1 3 のデータ用 ROM には、ハードディスク等の外部メモリ 1 4 がないプリンタの場合には、ホストコンピュータ上で利用される情報等が記憶されている。

10

20

30

40

50

## 【0018】

CPU12は入力部18を介してホストコンピュータとの通信処理が可能となっており、プリンタ内の情報等をホストコンピュータ3000に通知できる。RAM19は、CPU12の主メモリや、ワークエリア等として機能するRAMで、図示しない増設ポートに接続されるオプションRAMによりメモリ容量を拡張することができるように構成されている。なお、RAM19は、出力情報展開領域、環境データ格納領域、NVRAM等に用いられる。前述したハードディスク(HD)、ICカード等の外部メモリ14は、メモリコントローラ(MC)20によりアクセスを制御される。外部メモリ14は、オプションとして接続され、フォントデータ、エミュレーションプログラム、フォームデータ等を記憶する。また、18は前述した操作パネルで操作のためのスイッチおよびLED表示器等が配されている。

10

## 【0019】

また、前述した外部メモリ14は1個に限らず、複数個備えられ、内蔵フォントに加えてオプションカード、言語系の異なるプリンタ制御言語を解釈するプログラムを格納した外部メモリを複数接続できるように構成されていてもよい。更に、図示しないNVRAMを有し、操作パネル1501からのプリンタモード設定情報を記憶するようにしてもよい。

## 【0020】

図2は、プリンタ等の印刷装置が直接接続されているか、あるいはネットワーク経由で接続されているホストコンピュータにおける典型的な印刷処理の構成図である。アプリケーション201、グラフィックエンジン202、プリンタドライバ203、およびシステムスプーラ204は、外部メモリ11に保存されたファイルとして存在し、実行される場合にOSやそのモジュールを利用するモジュールによってRAM2にロードされ実行されるプログラムモジュールである。また、アプリケーション201およびプリンタドライバ203は、外部メモリ11のFDや不図示のCD-ROM、あるいは不図示のネットワークを経由して外部ディスク11のHDに追加することが可能となっている。外部メモリ11に保存されているアプリケーション201はRAM2にロードされて実行されるが、このアプリケーション201からプリンタ1500に対して印刷を行う際には、同様にRAM2にロードされ実行可能となっているグラフィックエンジン202を利用して出力(描画)を行う。

20

## 【0021】

グラフィックエンジン202は、印刷装置ごとに用意されたプリンタドライバ203を同様に外部メモリ11からRAM2にロードし、アプリケーション201の出力をプリンタドライバ203に設定する。そして、アプリケーション201から受け取るGDI(Graphic Device Interface)関数からDDI(Device Driver Interface)関数に変換して、プリンタドライバ203へDDI関数を出力する。プリンタドライバ203は、グラフィックエンジン202から受け取ったDDI関数に基づいて、プリンタが認識可能な制御コマンド、例えばPDL(Page Description Language)に変換する。変換されたプリンタ制御コマンドは、OSによってRAM2にロードされたシステムスプーラ204を経てインタフェース21経由でプリンタ1500へ印刷データとして出力される仕組みとなっている。

30

40

## 【0022】

本実施形態の印刷システムは、図2で示すプリンタとホストコンピュータからなる印刷システムに加えて、更に第3図に示すように、アプリケーションからの印刷データを一旦中間コードデータでスプールする構成を有する。

## 【0023】

<本実施形態における印刷関連のソフトウェアモジュール>

図3は、図2のシステムを拡張したもので、グラフィックエンジン202からプリンタドライバ203へ印刷命令を送る際に、一旦中間コードからなるスプールファイル303を生成する構成をとる。図2のシステムでは、アプリケーション201が印刷処理から開放されるのはプリンタドライバ203がグラフィックエンジン202からのすべての印刷命

50



令をプリンタの制御コマンドへ変換し終った時点である。これに対して、図3のシステムでは、スプーラ302がすべての印刷命令を中間コードデータに変換し、スプールファイル303に出力した時点である。通常、後者の方が短時間で済む。また、図3で示すシステムにおいては、スプールファイル303の内容に対して加工することができる。これによりアプリケーションからの印刷データに対して、拡大縮小や、複数ページを1ページに縮小して印刷する等、アプリケーションの持たない機能を実現することができる。

#### 【0024】

これらの目的のために、図2のシステムに対し、図3の様に中間コードデータでスプールする様、システムの拡張がなされてきている。なお、印刷データの加工を行うためには、通常プリンタドライバ203が提供するウィンドウから設定を行い、プリンタドライバ203がその設定内容をRAM2上あるいは外部メモリ11上に保管する。

10

#### 【0025】

以下、図3の詳細を説明する。図に示す通り、この拡張された処理方式では、グラフィックエンジン202からの印刷命令であるDDI関数をディスパッチャ301が受け取る。ディスパッチャ301がグラフィックエンジン202から受け取った印刷命令（DDI関数）が、アプリケーション201からグラフィックエンジン202へ発行された印刷命令（GDI関数）に基づくものである場合には、ディスパッチャ301は外部メモリ11に格納されているスプーラ302をRAM2にロードし、プリンタドライバ203ではなくスプーラ302へ印刷命令（DDI関数）を送付する。

#### 【0026】

20

スプーラ302は受け取った印刷命令を解析し、ページ単位に中間コードに変換してスプールファイル303に出力する。このページ単位に格納されている中間コードのスプールファイルをページ描画ファイル（PDF: Page Description File）と呼ぶ。また、スプーラ302は、プリンタドライバ203に対して設定されている印刷データに関する加工設定（Nup、両面、ステイプル、カラー/モノクロ指定等）をプリンタドライバ203から取得してジョブ単位のファイルとしてスプールファイル303に保存する。この時部単位に格納されている設定ファイルをジョブ設定ファイル（簡略してSDF: Spool Description Fileと呼ぶこともある）と呼ぶ。このジョブ設定ファイルについては後述する。なお、スプールファイル303は外部メモリ11上にファイルとして生成するが、RAM2上に生成されても構わない。更にスプーラ302は、外部メモリ11に格納されているスプールファイルマネージャ304をRAM2にロードし、スプールファイルマネージャ304に対してスプールファイル303の生成状況を通知する。その後、スプールファイルマネージャ304は、スプールファイル303に保存された印刷データに関する加工設定の内容に従って印刷を行えるか判断する。

30

#### 【0027】

スプールファイルマネージャ304がグラフィックエンジン202を利用して印刷を行えると判断した際には、外部メモリ11に格納されているデスプーラ305をRAM2にロードし、デスプーラ305に対して、スプールファイル303に記述された中間コードのページ描画ファイルの印刷処理を行うように指示する。

40

#### 【0028】

デスプーラ305はスプールファイル303に含まれる中間コードのページ描画ファイルをスプールファイル303に含まれる加工設定情報を含むジョブ設定ファイルに従って加工し、GDI関数を再生成し、もう一度グラフィックエンジン202経由でGDI関数を出力する。

#### 【0029】

ディスパッチャ301がグラフィックエンジン202から受け取った印刷命令（DDI関数）がデスプーラ305からグラフィックエンジン202へ発行された印刷命令（GDI関数）に基づいたものである場合には、ディスパッチャ301はスプーラ302ではなく、プリンタドライバ203に印刷命令を送る。

50

## 【 0 0 3 0 】

プリンタドライバ 2 0 3 はグラフィックエンジン 2 0 2 から取得した D D I 関数に基づいてページ記述言語等からなるプリンタ制御コマンドを生成し、システムスプーラ 2 0 4 経由でプリンタ 1 5 0 0 に出力する。

## 【 0 0 3 1 】

更に、図 3 では、これまで説明した拡張システムに加えて、プレビューア 3 0 6、設定変更エディタ 3 0 7 を配し、プレビュー、印刷設定変更、複数ジョブの結合を可能にした例を示している。

## 【 0 0 3 2 】

印刷プレビュー、印刷設定変更、複数ジョブの結合を行うためには、まずユーザが図 9 に示すプリンタドライバのプロパティにおいて、「出力先の指定」を行う手段であるプルダウンメニュー 9 0 1 において「ストア」を指定する必要がある。なお、プレビューだけをみたい場合は、出力先の指定として「プレビュー」を選択することによっても可能である。

## 【 0 0 3 3 】

このようにプリンタドライバのプロパティで設定されている内容は設定ファイルとして OS が提供する構造体 ( Windows OS では、DEV MODE と呼ばれる ) に格納される。その構造体には、例えばスプールファイル 3 0 3 に含まれる加工設定中にスプールファイルマネージャ 3 0 4 にストアを行うかどうかの設定が含まれており、スプールファイルマネージャ 3 0 4 がプリンタドライバを介して加工設定を読み込み、ストア指定がなされていた場合、前述したようにスプールファイル 3 0 3 にページ描画ファイルとジョブ設定ファイルとが生成・格納され、図 1 6 のようにスプールファイルマネージャのウィンドウ画面がポップアップされ、スプールファイル 3 0 3 にスプールされたジョブがリスト表示される。図 1 6 には、4 つのジョブがスプールされている例を示しており、メニューバーもしくは、そのすぐ下のメニューアイコンを押下することにより、ジョブの操作を行うことができる。メニューバーとメニューアイコンの操作の数は同じである。操作種類としては、ジョブを選択した状態で、「印刷」、中間コードのスプールファイルをそのまま残して印刷を行わせる「セーブして印刷」、印刷設定を考慮したジョブの出力プレビューを見るための「プレビュー」、中間コードのスプールファイルを削除する「削除」、中間コードのスプールファイルのコピーを生成する「複製」、複数の中間コードのスプールファイルのジョブを結合して 1 つのジョブにする「結合」、結合ジョブを元の複数のジョブに分割する「分割」、単体ジョブもしくは結合ジョブの印刷設定 ( レイアウト設定やフィニッシング設定等 ) を変更する「ジョブ編集」、あるジョブの印刷順序を最初にする「先頭に移動」、あるジョブの印刷順序を 1 つ早くする「1 つ上に移動」、あるジョブの印刷順序を 1 つお則する「1 つ下に移動」、あるジョブの印刷順序を最後にする「最後に移動」の以上 1 1 個の操作がある。

## 【 0 0 3 4 】

スプールファイルマネージャのウィンドウ画面 ( 図 1 6 ) 上で、ある単体ジョブもしくは結合ジョブのプレビュー指定がされた場合、外部メモリ 1 1 に格納されているプレビューア 3 0 6 を R A M 2 にロードし、プレビューア 3 0 6 に対して、スプールファイル 3 0 3 に記述された中間コードのジョブのプレビュー処理を行うように指示する。

## 【 0 0 3 5 】

( プレビューア )

プレビューア 3 0 6 はスプールファイル 3 0 3 に含まれる中間コードのページ描画ファイル ( P D F ) を順次読み出し、スプールファイル 3 0 3 に格納されているジョブ設定ファイル ( S D F ) に含まれる加工設定情報の内容に従って加工し、グラフィックエンジン 2 0 2 に対して G D I 関数を出力し、グラフィックエンジン 2 0 2 が自身のクライアント領域に描画データを出力することによって、画面上の出力が可能となる。

## 【 0 0 3 6 】

グラフィックエンジン 2 0 2 は、指定された出力先に応じて適切なレンダリングを行うこ

10

20

30

40

50

とが可能である。このことから、プレビューア306は、デスプーラ305同様に、スプールファイル303に含まれる中間コードをスプールファイル303に含まれる加工設定の内容に従って加工し、グラフィックエンジン202を利用して出力する方法で実現可能となる。このようにプリンタドライバで設定されている加工設定をジョブ設定ファイルとしてスプールファイル303に格納し、このジョブ設定ファイルに基づいてページ描画ファイルのデータを加工して出力することにより、実際の描画データがどのように印刷されるか、更には、Nup（Nページの論理ページを1ページの物理ページに縮小配置して印刷する処理）指定されている場合、両面印刷されている場合、製本印刷指定されている場合、スタンプが指定されている場合、それぞれに応じて、プリンタで出力されるものに近い印刷プレビューをユーザに提供することができる。なお、従来の文書作成等のアプリケーションソフトウェアが有しているプレビュー機能は、あくまでそのアプリケーションにおけるページ設定に基づいて描画しているため、プリンタドライバでの印刷設定が反映されず、実際に印刷出力されるプレビューをユーザに認識させることはできなかった。

10

#### 【0037】

上記のようにプレビュー処理を行うことにより、図17のようにスプールファイル303に含まれる印刷の加工設定の大プレビューがプレビューア306によって画面上に表示され、その後、ユーザの非表示指示によって、プレビューア306がクローズされ、制御がスプールファイルマネージャのウィンドウ画面（図16）に移行する。

#### 【0038】

そして、ユーザがプレビューア306によって表示された内容に従って、印刷を行うならば、スプールファイルマネージャ304上で、「印刷」もしくは「セーブして印刷」を指示することにより印刷要求を発行する。印刷要求は前述したように、デスプーラ305によりジョブ設定ファイルに基づいてページ描画ファイルを加工してGDI関数を生成し、グラフィックエンジン202に伝えられ、ディスパッチャ301経由で、プリンタドライバ203に印刷命令が送られ、印刷が実行される。

20

#### 【0039】

（設定変更エディタ）

次に、設定変更エディタ307を用いた設定変更について説明する。

#### 【0040】

その実現方法としては、プレビュー同様、図9において「ストア」指定されたジョブに関して設定可能である。同様のフローによりスプールファイルマネージャ304がポップアップされ、スプールされたジョブがリスト表示される。スプールファイルマネージャのウィンドウ画面（図16）上で、「ジョブ編集」が指定され、設定変更指示がされた場合、外部メモリ11に格納されている設定変更エディタ307をRAM2にロードし、設定変更エディタ307に対して、現在またはデフォルトの加工設定の表示を行うように指示する。そして図18のようなジョブ設定画面が表示される。

30

#### 【0041】

設定変更エディタ307は、「ジョブ編集」が指定されたジョブのジョブ設定ファイルをスプールファイル303から取得し、そのジョブ設定ファイルに指定されている設定項目に基づいて図18のジョブ設定画面のデフォルト値を変更する。図18に示す例では、「ジョブ編集」指定されたジョブのジョブ設定ファイルには、部数：1部、印刷方法：片面、ステイプル：なし、レイアウト：1ページ/枚等が指定されていることになる。

40

#### 【0042】

この設定変更エディタ307でもスプールファイル303に含まれる中間コードのページ描画ファイルをスプールファイル303に格納されているジョブ設定ファイルに含まれる加工設定の内容に従って加工し、グラフィックエンジン202を用いて自身のクライアント領域に出力することによって、図18に示す画面上の小プレビュー出力が可能となる。

#### 【0043】

またここで、スプールファイル303に格納されているジョブ設定ファイルに含まれる加工設定の内容を変更、修正することが可能である。その際、プリンタドライバ203の設

50

定可能な項目を設定変更エディタ 307 上のユーザインターフェイスに持っても、プリンタドライバ 203 自身のユーザインターフェイスを呼び出しても構わない。図 18 に示すように、分数、印刷方法（片面、両目、製本印刷）、ステイプル（サドルフィニッシャー等）、ページレイアウト、配置順等の指定ができ、また「詳細設定」を押下することにより、プリンタドライバで指定できる項目の大半を設定しなおすことが可能となる。ただし、解像度、グラフィックモード等の印刷品位に関する設定の変更は許可しないものとする。

#### 【0044】

ここで変更された変更項目は設定変更エディタ 307 上の認証要求に従い、変更が認証され、制御がスプールファイルマネージャ 304 に移行する。変更が認証されたものは、印刷設定の変更を保存することになるが、オリジナルのジョブ設定ファイルには保存せずに、ジョブ編集等で用いられるジョブ出力用設定ファイルを新たに生成して保存することになる。ジョブ出力用設定ファイルについての詳細は、図 10 以降で後述する。

10

#### 【0045】

そして、ユーザがプレビューア 306 での確認同様、設定変更内容に従って、印刷を行うならば、スプールファイルマネージャ 304 上で、印刷要求を発行する。印刷要求はグラフィックエンジン 202 に伝えられ、ディスパッチャ 301 経由で、プリンタドライバ 203 に印刷命令が送られ、印刷が実行される。

#### 【0046】

また、スプールファイルマネージャのウィンドウ画面（図 16）では、複数の印刷ジョブを結合し、一つの印刷ジョブとして印刷するように指定することが可能である。これも、プレビュー、設定変更同様、図 9 のプリンタドライバのプロパティにおいて出力先を「ストア」指定されたジョブが前提となる。

20

#### 【0047】

ユーザが印刷ジョブの結合を行う場合、まず、アプリケーション 201 からプリンタドライバ 203 を呼び出し、図 9 に示すようなユーザインターフェイス上からストアを選択する。前記同様、この選択により、スプールファイル 303 にストアされ、図 16 のようにスプールファイルマネージャのウィンドウ画面（図 16）がポップアップされる。スプールされたジョブはスプールファイルマネージャのウィンドウ上にリスト表示される。アプリケーション 201 から同様の操作をすることにより、スプールファイルマネージャ 304 上に複数ジョブのリスト表示がされることになる。

30

#### 【0048】

ここで、複数ジョブを選択し、「結合」が指定された場合、外部メモリ 11 に格納されている設定変更エディタ 307 を RAM 2 にロードし、設定変更エディタ 307 に対して、リスト上の先頭ジョブまたはデフォルトの加工設定の表示を行うように指示する。そして図 18 のような結合設定画面が表示される。ここでは、設定変更エディタ 307 を結合設定画面として用いているが、別モジュールのものを用いても構わない。

#### 【0049】

この設定変更エディタ 307 は、スプールファイル 303 に含まれる中間コードのページ描画ファイルをスプールファイル 303 に格納されているジョブ設定情報に含まれる加工設定の内容に従って加工し、結合ジョブとして指定されたすべてのジョブに対して、グラフィックエンジン 202 を用いて自身のクライアント領域に出力することによって、画面上の出力を行う。その際、図 18 に示すプレビュー領域に選択された全てのジョブの小プレビューが可能となる。また、結合ジョブを生成する際に、それぞれの単体ジョブのジョブ設定ファイルを拡張したジョブ出力用設定ファイルを生成する。このジョブ出力用設定ファイルは、ジョブ編集を行う際にも生成されるものであり、1つのジョブに対して1つできるものであり、結合ジョブの場合もまた1つ生成される。

40

#### 【0050】

ここではそれぞれのジョブに対して、結合する前の加工設定で表示することも、結合ジョブとして統一の加工設定に変更、修正して表示することも可能である。その際、プリンタ

50

ドライバ 203 の設定可能な項目を設定変更エディタ 307 上のユーザインターフェイスに持っても、プリンタドライバ 203 自身のユーザインターフェイスを呼び出しても構わない。

#### 【0051】

ここで結合されたジョブ及び変更された変更項目は、前述したように、設定変更エディタ 307 上の認証要求に従い、変更が認証され、制御がスプールファイルマネージャ 304 に移行する。これらの操作により、先に選択された複数ジョブは、スプールファイルマネージャのウィンドウ上で一つの結合ジョブとして表示される。

#### 【0052】

そして、ユーザがプレビューア 306 での確認同様、設定変更内容に従って、印刷を行うならば、スプールファイルマネージャ 304 上で、印刷要求を発行する。印刷要求はグラフィックエンジン 202 に伝えられ、ディスパッチャ 301 経由で、プリンタドライバ 203 に印刷命令が送られ、印刷が実行される。

#### 【0053】

<レーザビームプリンタの構成>

図 4 は、プリンタ 1500 の一例である両面印刷機能を有するカラーレーザプリンタの断面図である。

#### 【0054】

このプリンタはホストコンピュータ 3000 より入力した印刷データに基づいて得られる各色毎の画像データで変調されたレーザ光をポリゴンミラー 31 により感光ドラム 15 を走査して静電潜像を形成する。そして、この静電潜像をトナー現像して可視画像を得、これを中間転写体 9 へ全色について多重転写してカラー可視画像を形成する。そして更に、このカラー可視画像を転写材 2 へ転写し、転写材 2 上にカラー可視画像を定着させる。以上の制御を行う画像形成部は、感光ドラム 15 を有するドラムユニット、接触帯電ローラ 17 を有する一次帯電部、クリーニング部、現像部、中間転写体 9、用紙カセット 1 や各種ローラ 3、4、5、7 を含む給紙部、転写ローラ 10 を含む転写部及び定着部 25 によって構成されている。

#### 【0055】

ドラムユニット 13 は、感光ドラム（感光体）15 と感光ドラム 15 のホルダを兼ねたクリーニング機構を有するクリーナ容器 14 とを一体に構成したものである。このドラムユニット 13 はプリンタ本体に対して着脱自在に支持され、感光ドラム 15 の寿命に合わせて容易にユニット交換可能に構成されている。上記感光ドラム 15 はアルミシリンドラの外周に有機光導電体層を塗布して構成し、クリーナ容器 14 に回転可能に支持されている。感光ドラム 15 は、図示しない駆動モータの駆動力が伝達されて回転するもので、駆動モータは感光ドラム 15 を画像形成動作に応じて反時計回り方向に回転させる。感光ドラム 15 の表面を選択的に露光させることにより静電潜像が形成されるように構成されている。スキャナ部 30 では、変調されたレーザ光を、モータ 31a により画像信号の水平同期信号を同期して回転するポリゴンミラーにより反射し、レンズ 32、反射鏡 33 を介して感光ドラムを照射する。

#### 【0056】

現像部は、上記静電潜像を可視画像化するために、イエロー（Y）、マゼンダ（M）、シアン（C）の現像を行う 3 個のカラー現像器 20Y、20M、20C と、ブラック（B）の現像を行う 1 個のブラック現像器 21B とを備えた構成を有する。カラー現像器 20Y、20M、20C 及びブラック現像器 21B には、スリーブ 20YS、20MS、20CS 及び 21BS と、これらスリーブ 20YS、20MS、20CS、21BS それぞれの外周に圧接する塗布ブレード 20YB、20MB、20CB 及び 21BB とがそれぞれ設けられる。また 3 個のカラー現像器 20Y、20M、20C には塗布ローラ 20YR、20MR、20CR が設けられている。

#### 【0057】

また、ブラック現像器 21B はプリンタ本体に対して着脱可能に取り付けられており、カ

10

20

30

40

50

ラー現像器 20Y、20M、20C は回転軸 22 を中心に回転する現像ロータリー 23 にそれぞれ着脱可能に取り付けられている。

【0058】

ブラック現像器 21B のスリーブ 21BS は感光ドラム 15 に対して例えば 300  $\mu\text{m}$  程度の微小間隔を持って配置されている。ブラック現像器 21B は、器内に内蔵された送り込み部材によってトナーを搬送すると共に、時計回り方向に回転するスリーブ 21BS の外周に塗布ブレード 21BB によって塗布するように摩擦帯電によってトナーへ電荷を付与する。また、スリーブ 21BS に現像バイアスを印加することにより、静電潜像に応じて感光ドラム 15 に対して現像を行って感光ドラム 15 にブラックトナーによる可視画像を形成する。

10

【0059】

3 個のカラー現像器 20Y、20M、20C は、画像形成に際して現像ロータリー 23 の回転に伴って回転し、所定のスリーブ 20YS、20MS、20CS が感光ドラム 15 に対して 300  $\mu\text{m}$  程度の微小間隔を持って対向することになる。これにより所定のカラー現像器 20Y、20M、20C が感光ドラム 15 に対向する現像位置に停止し、感光ドラム 15 に可視画像が作成される。

【0060】

カラー画像形成時には、中間転写体 9 の 1 回転毎に現像ロータリー 23 が回転し、イエロー現像器 20Y、マゼンダ現像器 20M、シアン現像器 20C、次いでブラック現像器 21B の順で現像工程がなされ、中間転写体 9 が 4 回転してイエロー、マゼンダ、シアン、ブラックのそれぞれのトナーによる可視画像を順次形成し、その結果フルカラー可視画像を中間転写体 9 上に形成する。

20

【0061】

中間転写体 9 は、感光ドラム 15 に接触して感光ドラム 15 の回転に伴って回転するように構成されたもので、カラー画像形成時に時計回り方向に回転し、感光ドラム 15 から 4 回の可視画像の多重転写を受ける。また、中間転写体 9 は画像形成時に後述する転写ローラ 10 が接触して転写材 2 を挟持搬送することにより転写材 2 に中間転写体 9 上のカラー可視画像を同時に多重転写する。中間転写体の外周部には、中間転写体 9 の回転方向に関する位置を検知するための TOP センサ 9a 及び RS センサ 9b と、中間転写体に転写されたトナー像の濃度を検知するための濃度センサ 9c が配置されている。

30

【0062】

転写ローラ 10 は、感光ドラム 15 に対して接離可能に支承された転写帯電器を備えたもので、金属軸を中抵抗発泡弾性体により巻回することによって構成されている。

【0063】

転写ローラ 10 は、図 4 に実線で示すように中間転写体 9 上にカラー可視画像を多重転写している間は、カラー可視画像を乱さぬように下方に離開している。そして、上記中間転写体 9 上に 4 色のカラー可視画像が形成された後は、このカラー可視画像を転写材 2 に転写するタイミングに合わせてカム部材（不図示）により転写ローラ 10 を図示点線で示す上方に位置させる。これにより転写ローラ 10 は転写材 2 を介して中間転写体 9 に所定の押圧力で圧接すると共に、バイアス電圧が印加され、中間転写体 9 上のカラー可視画像が転写材 2 に転写される。

40

【0064】

定着部 25 は、転写 2 を搬送させながら、転写されたカラー可視画像を定着させるものであり、転写材 2 を加熱する定着ローラ 26 と転写材 2 を定着ローラ 26 に圧接させるための加圧ローラ 27 とを備えている。定着ローラ 26 と加圧ローラ 27 とは中空状に形成され、内部にそれぞれヒータ 28、29 が内蔵されている。即ち、カラー可視画像を保持した転写材 2 は定着ローラ 26 と加圧ローラ 27 とにより搬送されると共に、熱及び圧力を加えることによりトナーが表面に定着される。

【0065】

可視画像定着後の転写材 2 は、その後排紙ローラ 34、35、36 によって排紙部 37 へ

50

排出して画像形成動作を終了する。

【0066】

クリーニング手段は、感光ドラム15上及び中間転写体9上に残ったトナーをクリーニングするものであり、感光ドラム15上に形成されたトナーによる可視画像を中間転写体9に転写した後の廃トナーあるいは、中間転写体9上に作成された4色のカラー可視画像を転写材2に転写した後の廃トナーは、クリーナ容器14に蓄えられる。

【0067】

印刷される転写材(記録用紙)2は、給紙トレイ1から給紙ローラ3により取り出されて中間転写体9と転写ローラ10との間に挟まれるようにして搬送されてカラートナー画像が記録され、定着部25を通過してトナー像が定着される。片面印刷の場合には、案内38が上方の排紙部に記録用紙を導くように搬送経路を形成するが、両面印刷に対しては、

10

下方の両面ユニットに導くように経路を形成する。

【0068】

両面ユニットに導かれた記録用紙は、搬送ローラ40によりトレイ1の下部(二点鎖線で示す搬送経路)に一旦送り込まれた後に逆方向に搬送され、両面トレイ39に送られる。両面トレイ39上では、用紙は給紙トレイ1に載置された状態とは表裏が逆になり、また搬送方向について前後が逆になっている。この状態で再びトナー像の転写、定着を再度行うことで、両面印刷ができる。

【0069】

<印刷用中間データの保存処理>

20

図5は、スプーラ302における、スプールファイル303の生成におけるページ単位保存ステップの処理をフローチャートで示したものである。

【0070】

まずステップ501では、スプーラ302は、アプリケーションからグラフィックエンジン202を介して印刷要求を受けつける。アプリケーションにおいては、図8に示すような印刷設定を入力するダイアログが表示され、このダイアログから入力された印刷設定がプリンタドライバよりスプーラ303に渡される。図8に示す設定入力ダイアログにおいては、801のような1物理ページにレイアウトする論理ページの数を決めるような設定項目等を含んでいる。

【0071】

30

ステップ502では、スプーラ302は、受け付けた印刷要求がジョブ開始要求か判定し、もしステップ502でジョブ開始要求であると判断した場合には、ステップ503に進み、スプーラ302は、中間データを一時的に保存するためのスプールファイル303を作成する。続いて、ステップ504では、スプーラ302は、スプールファイルマネージャ304へ印刷処理の進捗を通知し、続くステップ505でスプーラ302のページ数カウンタを1に初期化する。ここで、スプールファイルマネージャ304においては、印刷が開始されたジョブに対するジョブの情報や加工設定などをスプールファイル303より読み込み、記憶する。

【0072】

一方、ステップ502において、ジョブ開始要求ではなかったと判断した場合には、ステップ506に進む。

40

【0073】

ステップ506では、スプーラ302は、受け付けた要求がジョブ終了要求かどうかの判別を行う。ジョブ終了要求でないと判断した場合には、ステップ507に進み、改ページかどうかの判別を行う。もしもステップ507で改ページであると判断した場合には、ステップ508に進み、スプールファイルマネージャ304へ印刷処理の進捗を通知する。そしてページ数カウンタをインクリメントして、中間コードを格納しているページ描画ファイルを閉じ、次のページ描画ファイルを生成する。

【0074】

ステップ507において、受け付けた印刷要求が改ページではないと判断した場合には、

50

ステップ509に進み、スプーラ302は、ページ描画ファイルへの中間コードの書き出しの準備を行う。

【0075】

次に、ステップ510では、印字要求をスプールファイル303へ格納するため、スプーラ302は、印字要求のDDI関数の中間コードへの変換処理を行う。ステップ511では、スプーラ302は、ステップ510において格納可能な形に変換された印刷要求(中間コード)をスプールファイル303のページ描画ファイルへ書き込む。その後、ステップ501に戻り、再びアプリケーションからの印刷要求を受け付ける。この一連のステップ501からステップ511までの処理を、アプリケーションよりジョブ終了要求(End Doc)を受け取るまで続ける。また、スプーラ302は、同時にプリンタドライバ203からDEVMODE構造体に格納されている加工設定等の情報を取得し、ジョブ設定ファイルとしてスプールファイル303に格納する。一方、ステップ506にて、アプリケーションからの印刷要求がジョブ終了であると判断した場合には、アプリケーションからの印刷要求は全て終了であるので、ステップ512に進み、スプールファイルマネージャ304へ印刷処理の進捗を通知し、処理を終える。

10

【0076】

<スプールファイルの生成>

図6は、スプールファイルマネージャ304における、スプールファイル303生成プロセスと以降説明する印刷データ生成プロセスの間での制御の詳細をフローチャートで示したものである。

20

【0077】

ステップ601では、スプールファイルマネージャ304は、スプーラ302あるいはデスプーラ305からの印刷処理の進捗通知を受け付ける。

【0078】

ステップ602では、スプールファイルマネージャ304は、もし進捗通知が前述のステップ504において通知されるスプーラ302からの印刷開始通知であるかどうか判定し、もしそうであればステップ603へ進み、印刷の加工設定をスプールファイル303から読み込み、ジョブの管理を開始する。一方、ステップ602において、スプーラ302からの印刷開始通知でなければステップ604へ進み、スプールファイルマネージャ304は、進捗通知が前述のステップ508において通知されるスプーラ302からの1論理ページの印刷終了通知であるかどうか判定する。ここで1論理ページの印刷終了通知であればステップ605へ進み、この論理ページに対する論理ページ情報を格納する。そして、続くステップ606では、この時点でスプールが終了したn論理ページに対して、1物理ページの印刷が開始できるかを判定する。ここで、印刷可能である場合はステップ607へ進み、印刷する1物理ページに対して割り付けられる論理数から物理ページ番号を決定する。

30

【0079】

物理ページの計算については、例えば、加工設定が1物理ページに4論理ページを配置するような設定の場合、第1物理ページは第4論理ページがスプールされた時点で印刷可能となり、第1物理ページとなる。続いて、第2物理ページは第8論理ページがスプールされた時点で印刷可能となる。

40

【0080】

また、論理ページ数の総数が1物理ページに配置する論理ページ数の倍数でなくても、ステップ512におけるスプール終了通知によって1物理ページに配置する論理ページが決定可能である。

【0081】

そして、ステップ608では、図10に示すような形式で、印刷可能となった物理ページを構成する論理ページ番号と、その物理ページ番号などの情報がジョブ出力用設定ファイル(物理ページ情報を含むファイル)に保存され、物理ページ情報が1物理ページ分追加されたことがデスプーラ305に通知される。その後ステップ601に戻り、次の通知を

50



待つ。本実施例においては、印刷データ1ページ、即ち1物理ページを構成する論理ページがスプールされた時点で印刷ジョブのスプールが全て終了していなくても印刷処理が可能である。

#### 【0082】

一方、ステップ604において、進捗通知がスプーラ302からの1論理ページの印刷終了通知でなかった場合ステップ609へ進み、スプールファイルマネージャ304は、前述のステップ512において通知されるスプーラ302からのジョブ終了通知であるかどうかを判定する。ここで、ジョブ終了通知である場合、前述のステップ606へ進む。一方、ジョブ終了通知でない場合、ステップ610へ進み、スプールファイルマネージャ304は、受け付けた通知がデスプーラ305からの1物理ページの印刷終了通知であるかどうか判定する。ここで、1物理ページの印刷終了通知である場合はステップ612へ進み、加工設定の印刷が全て終了したかを判定する。印刷終了した場合、ステップ612へ進み、デスプーラ305に印刷終了の通知を行う。一方、加工設定に対する印刷がまだ終了していないと判断した場合、前述の606へ進む。本実施例におけるデスプーラ305は印刷処理を行う単位として1物理ページ数を想定している。また、ステップ608では、1物理ページの印刷処理を行うのに必要な情報をファイルに逐次保存し、再利用可能な形式にしているが、再利用不要な場合には、共有メモリ等高速な媒体を使用し、1物理ページ単位で次々と上書きする実装にして、速度とリソースを節約するような実装形式であってもよい。また、デスプールの進捗よりもスプールの進捗の方が早い場合や全ページのスプール終了後からデスプールが開始されるような場合には、ステップ608で1物理ページ毎にページ印刷可能を通知せずに、デスプール側の進捗に応じて、複数物理ページもしくは全物理ページが印刷可能になったという通知内容にして、通知回数を節約することが可能である。

#### 【0083】

ステップ610において、通知がデスプーラ305からの1物理ページの印刷終了通知でないと判断された場合、ステップ613へ進み、スプールファイルマネージャ304は、デスプーラ305からの印刷終了通知かどうかを判定する。通知がデスプーラ305からの印刷終了通知と判定された場合、ステップ614へ進み、スプールファイルマネージャ304は、スプールファイル303の該当するページ描画ファイルの削除を行い処理を終える。ただし、一方、デスプーラ305からの印刷終了通知でなかった場合はステップ615へ進み、その他通常処理を行い、次の通知を待つ。

#### 【0084】

<スプールファイルの出力>

図7は、デスプーラ305における、印刷データの生成プロセスの詳細をフローチャートで示したものである。

#### 【0085】

デスプーラ305は、スプールファイルマネージャ304からの印刷要求に応じて、スプールファイル303から必要な情報（ページ描画ファイルおよびジョブ設定ファイル）を読み出して印刷データを生成する。生成された印刷データにおけるプリンタへの転送方法については図3で説明した通りである。

#### 【0086】

印刷データの生成では、まず、ステップ701において、前述のスプールファイルマネージャ304からの通知を入力する。続くステップ702では、デスプーラ305は、入力された通知がジョブの終了通知かどうか判定し、ジョブ終了通知であるならばステップ703へ進み、終了フラグを立て、ステップ705へ進む。一方、ステップ702においてジョブ終了通知でない場合は、ステップ704に進み、前述のステップ608における1物理ページの印刷開始要求が通知されたかどうか判定する。ステップ704において開始要求と判定されなかった場合は、ステップ710へ進み、その他エラー処理を行い、ステップ701へ戻り次の通知を待つ。一方、ステップ704において1物理ページの印刷開始要求と判定された場合は、ステップ705へ進み、デスプーラ305は、ステップ70

4で通知を受けた印刷処理可能な物理ページのIDを保存する。続くステップ706では、デスプーラ305は、ステップ705で保存した物理ページIDのすべてのページに関して印刷処理が済んでいるかどうか判定する。ここで全物理ページの処理が済んでいる場合は、ステップ707へ進み、前述のステップ703で終了フラグが立てられているのが判定する。終了フラグがたっている場合は、ジョブの印刷が終了したとみなし、デスプーラ305の処理終了の通知をスプールファイルマネージャ304に通知し、処理を終える。ステップ707で、終了フラグが立っていないと判定された場合は、ステップ701へ戻り次の通知を待つ。一方、ステップ706で、印刷可能な物理ページが残っていると判定された場合には、ステップ708へ進み、デスプーラ305は、保存された物理ページIDから未処理の物理ページIDを順に読み出し、読み出した物理ページIDに対応する物理ページの印刷データ生成に必要な情報を読み込み、印刷処理を行う。印刷処理はスプールファイル303に格納された印刷要求命令をデスプーラ305においてグラフィックエンジン202が認識可能な形式(GDI関数)に変換し、転送する。本実施例のような、複数論理ページを1物理ページにレイアウトするような加工設定(以下Nページ印刷)については、このステップで縮小配置を考慮にいれながら変換する。必要な印刷処理が終えたならば、続くステップ709において1物理ページの印刷データ生成終了の通知をスプールファイルマネージャ304に対して行う。そして再びステップ706へ戻り、ステップ705で保存しておいた印刷可能な物理ページIDすべてについて印刷処理を行うまで繰り返す。

10

#### 【0087】

20

以上が、デスパッチャ301、スプーラ302、スプールファイルマネージャ304、デスプーラ305を用いた印刷処理の流れである。上記のように処理することにより、スプーラ302が中間コードを生成してスプールファイル303に格納するタイミングでアプリケーション201が印刷処理から開放されるので、プリンタドライバ203に直接出力するよりも短時間で済む。また、スプールファイル303にプリンタドライバの印刷設定を踏まえた中間ファイル(ページ描画ファイル、ジョブ設定ファイル)として一時保存しているので、実際に印刷されるべき印刷プレビューをユーザに認識させることや、複数のアプリケーションにより生成した印刷ジョブの結合や並び替えが可能となり、印刷設定の変更を行う場合にも、再度アプリケーションを立ち上げて印刷をすることなしにユーザに行わせることを可能とする。

30

#### 【0088】

ここで、スプーラ302を用いた印刷処理において、デスプーラ305によりグラフィックエンジン202への印刷要求時にジョブ出力用設定ファイルが生成されるが、プレビューやジョブ結合等を行う場合もジョブ出力用設定ファイルが生成される。ジョブ出力用設定ファイルは、単体ジョブの場合はジョブ設定ファイルと同等のものであり、結合ジョブの場合は複数のジョブ設定情報に基づいて生成されるものである。ここでジョブ出力用設定ファイルについて説明する。

#### 【0089】

<ジョブ出力用設定ファイルの構成>

図10は、ステップ608において、スプールファイルマネージャ304が生成する印刷可能となった物理ページを構成する情報を保存しているジョブ出力用設定ファイルの例を示す。フィールド1001は、ジョブを識別するためのIDで、本情報を保存しているファイル名や共有メモリの名称という形で保持することも可能である。フィールド1002はジョブ設定情報である。ジョブ設定情報には、グラフィックエンジン202に対してジョブの印刷を開始するために必要な構造体、Nページ印刷の指定、ページ枠などの追加描画の指定、部数、ステープルなどのフィニッシング指定など、1つのジョブに対して1つしか設定できない情報が含まれている。ジョブ設定情報1002には、ジョブに対する機能に応じて必要なだけ情報が保存される。フィールド1003はジョブの物理ページ数で、本フィールド以降、この数の分だけ物理ページ情報が保存されていることを示す。本実施例では、印刷可能な物理ページ数を通知する方式であるので、このフィールドは無く

40

50

も動作可能である。これ以降、フィールド 1 0 0 4 から最後までフィールド 1 0 0 3 の数だけ物理ページ情報が格納される。物理ページ情報については図 1 2 で説明する。

#### 【 0 0 9 0 】

図 1 1 は、図 1 0 のフィールド 1 0 0 2 に図示されたジョブ設定情報の一例である。フィールド 1 1 0 1 は全物理ページ数である。フィールド 1 1 0 2 は、全論理ページ数である。フィールド 1 1 0 1 および 1 1 0 2 は、印刷データに追加して、ページ数などを付加情報として印刷する場合などに利用する。印刷が続いている際には、両フィールドは暫定的な値、もしくは、印刷が終了するまでスプールファイルマネージャ 3 0 4 は印刷可能な物理ページの情報の作成を延期する。フィールド 1 1 0 3 は本印刷ジョブを何部印刷するかを指定する部数情報である。フィールド 1 1 0 4 は、フィールド 1 1 0 3 で複数部印刷する設定の場合、部単位で印刷するかどうかの指定である。フィールド 1 1 0 4 はステープル、パンチ、Z 折などのフィニッシング情報で、プリンタ本体もしくは外部にフィニッシャーがある場合に指定される。フィールド 1 1 0 6 は付加印刷情報で、ページ枠などの飾り、日付などの付加情報、ユーザ名、ページ数、ウォーターマーク印刷等、ジョブに対して付加する情報が保存される。機能が増えるに従って本ジョブ設定情報に含まれるフィールドの数も増加し、例えば、両面印刷が可能な場合は、両面印刷の指定を保存するフィールドが追加される。

10

#### 【 0 0 9 1 】

図 1 2 は、図 1 0 のフィールド 1 0 0 4 に図示された物理ページ情報の一例を示す。最初のフィールド 1 2 0 1 は物理ページ番号で、印刷順序の管理や、物理ページ番号を追加印刷する際に使用される値である。フィールド 1 2 0 2 は物理ページ設定情報で、物理ページ毎にレイアウトやカラー・モノクロの指定が可能である場合、レイアウトやカラー・モノクロの設定が保存される。フィールド 1 2 0 3 は本物理ページに割り付けられる論理ページ数で、1 物理ページに 4 ページを割り付ける場合には 4 もしくは 4 ページ印刷を示す ID が保存される。フィールド 1 2 0 4 以降はフィールド 1 2 0 3 で指定された数だけ論理ページの情報が保存される。アプリケーション 2 0 1 から印刷されたページ数によっては、1 2 0 3 で指定されるページ数よりも実際のページデータ数が少なくなる場合がある。その場合には、論理ページ情報に空ページを示す特別なデータを保存して対応する。

20

#### 【 0 0 9 2 】

図 1 3 は、1 2 0 2 の物理ページ設定情報の例である。フィールド 1 3 0 1 は物理ページ上への論理ページの配置順で、N ページ印刷で、物理ページ上に論理ページを配置する順番（左上から横へ、左上から下へ等）の指定が保存されている。システムによっては、配置順ではなく、フィールド 1 2 0 4 以降の論理ページ情報の順番をページ番号順ではなく、配置順に応じた順序で配することで 1 3 0 1 の設定を代用する場合もある。フィールド 1 3 0 2 は両面印刷の表・裏の情報で、例えば綴じ代を表裏でそろえる際に使用される。フィールド 1 3 0 3 はカラーページかモノクロページかの指定で、プリンタがモノクロモードとカラーモードを持つ場合、カラーページとモノクロページが混在する文書で、カラーページをカラーモードで、モノクロページをモノクロモードで印刷したい場合などに使用される値である。この情報を持つことにより、オートカラーモードとして、ページ単位にカラープリンタで処理を変更することが可能となる。つまり、カラーページは、中間転写体（中間転写ドラム、中間転写ベルト）もしくは転写体（転写ドラム、転写ベルト）がデバイスカラーの数分、Y M C K なら 4 回転し、モノクロページは、ブラックだけ 1 回転することにより転写制御することを可能とする。フィールド 1 3 0 4 は付加印刷情報で、物理ページに対して、ページ数や、日付などの付加情報を印刷する場合に使用される。物理ページ設定情報も、システムの機能に応じてフィールドが追加される。

30

40

#### 【 0 0 9 3 】

図 1 4 は、1 2 0 4 で示された論理ページ情報の一例を示す。フィールド 1 4 0 1 は論理ページの ID で、この ID を利用して、スプールファイル 3 0 3 から論理ページに対応するページ描画ファイルの中間コードを参照する。この ID を利用して論理ページの中間コードへアクセス可能であれば良く、ファイルやメモリポインタであっても、論理ページを

50

構成する中間コード自身が入っていてもよい。フィールド 1402 は論理ページ番号で論理ページ番号を付加情報として印刷する場合や、論理ページ ID の補助情報に使用される。フィールド 1403 のフォーマット情報には、論理ページ単位で指定可能である各種設定項目が保存される。例えば、ページ枠などの付加印刷情報、拡張率などの論理ページ単位に指定される各種設定の情報が保存される。また、必要であれば、論理ページ単位のカラー・モノクロ情報などの論理ページに対する属性情報を保存する事も可能である。逆に、論理ページ単位で設定を切りかえる事や論理ページ単位での属性情報が不要であるようなシステムでは、フィールド 1403 は不要である。

#### 【0094】

ジョブ出力用設定ファイルは、上記のように構成されている。なお、ジョブ設定ファイルもほぼ同様であり、印刷体裁（片面、両面、製本印刷）、印刷レイアウト（Nup、ポスター印刷）、付加情報（ウォーターマーク、日付、ユーザ名の付加）、部数、用紙サイズ情報がジョブとして有しており、物理ページ毎に、論理ページの配置順、両面印刷の表面か、裏面か、カラーモード等から構成されている。

#### 【0095】

更に、図 3 では、これまで説明した拡張システムに加えて、ジョブの設定変更機能を持つ設定変更エディタ 307 を配した例を示している。本実施例ではジョブの設定内容は、単体ジョブは、ジョブ設定ファイルに、また結合ジョブは、図 10 に示したジョブ出力用設定ファイル中に含まれており、中間コードを保存しているページ描画ファイル 303 とは独立しているため、ジョブ出力用設定ファイルを作り変えることでジョブの設定変更が可能である。設定変更エディタ 307 は単独で、あるいはスプールファイルマネージャ 304 と連携して、ジョブ出力用設定ファイルを作り変え、あるいは、一部を書き換えることでジョブの設定変更機能を実現している。

#### 【0096】

< 設定変更の処理手順 >

図 15 は、設定変更エディタ 307 におけるジョブ設定変更処理プロセスの詳細をフローチャートで示したものである。

#### 【0097】

まずステップ 1501 では、設定変更エディタは、ジョブ設定ファイルもしくはジョブ出力用設定ファイルを読み込む。ジョブ出力用設定ファイルはプレビューア 305、デスプーラ 303 が読み込むものと同じファイルである。次に、ステップ 1502 へ進み、読み込んだ結果を、ユーザに表示する。ステップ 1503 で、図 18 に示したようなユーザインターフェイス上で、ユーザとの対話を行い、前述したメニューの指定等により設定内容を変更する。このステップは、対話形式でなく、ファイルなどに書きこまれた設定変更の内容に応じて変更するパッチ形式でもよい。次にステップ 1504 へ進み、ステップ 1501 で設定変更エディタは、最初に読み込んだ内容と、現在指定されている設定内容に変更があったかどうかの判定を行う。設定内容に変更が合った場合は、ステップ 1505 へ進み、新規のジョブ出力用設定ファイルを生成し、変更があったことをスプールファイルマネージャに通知して終了する。ステップ 1505 で、変更がないと判定された場合は、変更がなかったことをスプールファイルマネージャに通知して終了する。このように新規のジョブ出力用設定ファイルを生成するが、図 18 のユーザインタフェース画面において、「OK」ボタンが選択されることにより、新規のジョブ出力用設定ファイルが有効となり、古いジョブ出力用設定ファイルは削除される。また、ジョブ出力用設定ファイルからの変更ではなく、単体ジョブのジョブ設定ファイルの場合は削除せずに保存しておく。また、図 18 の画面で「初期状態に戻す」ボタンが選択された場合は、新規のジョブ出力用設定ファイルを削除し、古いジョブ出力用設定ファイルが有効となり、表示に反映させる。本実施例では、設定変更エディタ 307 を別モジュールとして説明しているが、単にスプールファイルマネージャ 304 のユーザインターフェイスの一部であってもよい。設定変更エディタ 307 で実際に変更内容をジョブ出力用設定ファイルに書きこまずに、設定変更の内容のみをスプールファイルマネージャ 304 へと通知するだけで、実際のジョブ

10

20

30

40

50

出力用設定ファイルの変更はスプールファイルマネージャ 3 0 4 側で行う実装形式でもよい。

#### 【 0 0 9 8 】

図 3 では、更に、複数印刷ジョブを結合し、一つの印刷ジョブとして印刷する拡張システムが図示されているが、結合ジョブをデスプール・プレビューするための拡張について説明する。

#### 【 0 0 9 9 】

通常、中間形式のスプールファイル 3 0 3 はジョブ単位で作成される。単独ジョブの場合は、処理対象ジョブファイル中の各論理ページの間コードを順に読み出して処理を行うので、フィールド 1 4 0 1 の論理ページ ID は、各論理ページがファイルのどこに位置しているのかを示す相対あるいは絶対オフセットで実現可能である。結合ジョブの場合はフィールド 1 4 0 1 のジョブ ID から、スプールファイルと、そのジョブに属するページ情報を特定する必要がある。本実施例では、スプールファイルを識別する ID を論理ページ ID に付加することで、スプールファイルを特定する方式とする。この場合、主な変更点はフィールド 1 4 0 1 のみで済む。スプールファイルが識別できれば、ページ部分の読み込みは単独ジョブの処理と同じロジックで処理することが可能であるからである。また、スプールファイルが各論理ページ毎に別ファイルの形で保存されている場合は、論理ページのファイル名をそのままフィールド 1 4 0 1 の論理ページ ID とする実装形もある。

<ストア処理時のプレビュー表示>

次に、前述したように中間データ及びジョブ出力用設定ファイルとして保存された印刷ジョブに基づいて印刷プレビュー画像を表示する手順について説明する。利用者は、アプリケーションプログラムからの印刷時に、図 9 のように印刷ジョブのストア処理を指定することで、図 5 の手順によって中間コードとジョブ出力用設定ファイルとにより定義される印刷ジョブを作成させることができる。この結果、図 1 6 のように、現在格納されている印刷ジョブのリストが表示される。利用者は印刷ジョブリストから所望の印刷ジョブを指定して、印刷ジョブの編集、結合、すでに結合されているジョブへの印刷ジョブの追加、結合されたジョブ内における印刷ジョブの順序変更などの操作を行うことができる。

#### 【 0 1 0 0 】

この際、印刷ジョブをリストから指定して編集や結合等の操作をボタンやメニューなどから指定すると、図 1 8 に示したようなジョブ全体にわたる印刷プレビュー画面が表示される。なお、この印刷プレビュー画面は、通常のアプリケーションなどで用意されているプレビュー画面などのように、ページ単位で表示するものと異なり、単一の、あるいは結合された印刷ジョブ全体にわたって、ページのつながりなど、ページ間の関係についてもプレビュー表示できる。

#### 【 0 1 0 1 】

図 1 9 は、アプリケーションプログラム等で作成したデータを、ストア指定をして印刷させた場合の手順である。図 9 の画面で出力先としてメニュー 9 0 1 から「ストア」を選択しておき、印刷させると、図 9 の手順が実行される。まず、ステップ S 1 9 0 1 においてスプーラを起動し、中間データおよびジョブ出力設定ファイルを生成して格納する。「ストア」が指定された場合には、スプーラは印刷開始をスプールマネージャに対して指示せず、中間データは印刷されずに保持される。この状態の印刷ジョブを、本実施形態ではストアされた印刷ジョブと呼ぶことにする。

#### 【 0 1 0 2 】

そして、ステップ S 1 9 0 1 で中間データに変換されて保持されている印刷ジョブを、すでにストアされている印刷ジョブリストにステップ S 1 9 0 2 において追加する。ただし、本実施形態では、ストアされた印刷ジョブは、ストアされた印刷ジョブを管理するためのプログラム（図 3 のプレビューア 3 0 6 および設定変更エディタ 3 0 7）の実行中だけ保持され、その実行を終了するとストアされた印刷ジョブは消去される。しかしながら、いったんストアした印刷ジョブは、それを積極的に削除するまでは保持するようにしてもよい。

10

20

30

40

50

## 【0103】

ストアされた印刷ジョブのリストに新たな印刷ジョブが追加されると、ステップS1903において、図16に示すようにそれらジョブのリストを表示する。なお、中間データとして保持されている印刷ジョブを保持されているジョブ、その中から、結合あるいは編集のために選択されたジョブを対象ジョブと呼ぶことにする。

## 【0104】

<ジョブリストの表示>

図20は図19のステップS1903の詳細を示すフロー図である。なお、図20の手順は、ジョブリスト中からジョブが選択された場合など、表示すべき状態に変更が生じる都度実行され、ジョブリスト表示が更新される。

10

## 【0105】

まず、ステップS2001において、複数のジョブが選択されているか判定する。否の場合にはステップS2002において選択されているジョブがあるか判定する。選択されているジョブがある場合には、そのジョブを注目ジョブとし、また、編集ボタンをイネーブルにする。編集ボタンは、図16におけるボタン1608である。図16はまさに単一のジョブが選択された状態であり、編集ボタンがイネーブルになっている。

## 【0106】

一方、選択されているジョブがない場合には、ステップS2004において、最後に選択されていたジョブを注目ジョブとする。最後に選択されていたジョブがなければ、すなわち、最初にジョブリストを表示する場合にはジョブリストの先頭のジョブを注目ジョブとする。

20

## 【0107】

注目ジョブが決定されると、ステップS2005において、その注目ジョブと結合できないジョブを保持されているジョブ全体から探し出し、それが注目ジョブと結合できない旨と結合できない理由とを所定のメモリ領域等に設定する。なお、注目ジョブと結合できないジョブとは、例えば、指定された解像度や1画素あたりのビット数、あるいはグラフィックモードのいずれかが注目ジョブとは異なるジョブである。

## 【0108】

最後に、ステップS2006において、ジョブリストを表示する。この際、ステップS2005で結合できない旨およびその理由が設定されたジョブについては、そのジョブを表示した欄に、注目ジョブと結合できない旨を示すシンボルとその理由とが表示される。図26はこの様子を示している。選択されたジョブ2601に対して、ジョブ2602は結合可能であるが、ジョブ2603以下は結合できないために、その旨示すシンボルが左側に、結合できない理由がコメント欄に表示されている。

30

## 【0109】

一方複数のジョブが選択されている場合には、ステップS2007において選択されたジョブ同士が結合可能か判定され、結合可能であればステップS2008において結合ボタン(図16のボタン1606)がイネーブル(操作可能状態)にされ、ステップS2006に進んでジョブリストが表示される。

## 【0110】

また、選択されたジョブすべてを結合できない場合には、ステップS2009において、保持されているジョブすべてについて結合できない旨が設定される。ステップS2006では、ステップS2009において結合できない旨設定されたジョブについて、その旨を示すシンボルやコメントを表示する。

40

## 【0111】

このようにして、ジョブリストが表示される。前述したように、図20の手順はジョブリストからジョブが選択される都度再実行されるために、選択されたジョブに応じて、結合の可否や、編集操作や結合操作の可・不可を利用者に提示することができる。

## 【0112】

<編集・結合操作>

50

表示されたジョブリストからジョブが選択された状態で、編集ボタン（選択ジョブが単一の場合）や結合ボタン（選択ジョブが複数の場合）が操作されると、図 2 1 の手順が遂行される。なお、結合不可能なジョブが選択されている場合には結合操作はできない。

#### 【 0 1 1 3 】

まずステップ S 2 1 0 1 において、操作が結合操作であるか判定される。結合操作であれば、ステップ S 2 1 0 2 において、選択されているジョブ出力用設定ファイルを仮に結合する。この操作は確定されていないので、仮のジョブ出力用ファイルを作成してそれを使用する。なお、ジョブの結合時には、各ジョブの設定をそのまま用いず、一部の設定を変更して統一している。

#### 【 0 1 1 4 】

統一の仕方としては、所定の設定に変更したり、先頭のジョブに他のジョブが合わせたり、クリアしたりしている。例えば、結合されるジョブの印刷方法の指定は、それらがすべて両面印刷の場合以外には片面印刷に統一される。また、綴じ代やステープル指定、正順 / 逆順の別、フェイスアップ / ダウンの別、インサータの使用などは先頭のジョブに合わせられる。部数や製本指定などはクリアされる。

#### 【 0 1 1 5 】

そして、ステップ S 2 1 0 2 で結合されたジョブ出力用設定ファイル、あるいは編集の対象として選択されたジョブのジョブ出力用設定ファイルを用いて、ステップ S 2 1 0 3 においてプレビュー表示を実行し、ステップ S 2 1 0 4 で対象ジョブ一覧を表示する。プレビュー画面には、編集あるいは結合の対象となるジョブに含まれる全ページのサムネール画像がそのレイアウトに従って表示される。また、対象ジョブ一覧には、編集あるいは結合操作の対象となっているジョブの名称やページ数、ページレイアウトが一覧表示される。この一覧表示において、結合操作の場合にはジョブの順序を所望の順序に入れ替えることができるし、所望のジョブを対象ジョブ群から削除することもできる。このように対象ジョブを操作した場合には、図 2 1 の手順は再実行され、プレビュー画面および対象ジョブ一覧が再表示される。

#### 【 0 1 1 6 】

また、対象ジョブの印刷設定を変更することも可能である。変更できる項目は、ジョブ出力用設定ファイルの編集によって変更することができる項目である。中間データを操作する必要がある項目は、本実施形態では操作させていない。しかしながら、処理時間や必要な資源などを考慮しなければ、すべての項目を再設定させることもできる。本実施形態のシステムで再設定可能な項目としては、印刷方法（片面 / 両面 / 製本）や、部数、ステープルの有無などがある。

#### 【 0 1 1 7 】

< 対象ジョブの印刷プレビュー表示 >

図 2 2 は、図 1 6 に示した印刷ジョブのリスト表示画面において、利用者がジョブ編集や結合等、所望の操作を指示した場合に、図 1 8 のようなジョブプレビュー画面を表示する手順を示すフローチャートであり、図 2 1 のステップ S 2 1 0 3 の詳細に相当する。

#### 【 0 1 1 8 】

図 2 2 において、まず、ステップ S 2 2 0 1 で対象ジョブそれぞれのレイアウト設定を取得する。レイアウト設定項目には、印刷方法、ページレイアウト、ページ枠、フィニッシング、給紙切り替え等の項目があるが、これら情報は図 1 0 乃至図 1 3 に示したジョブ出力用設定ファイルから取得される。

#### 【 0 1 1 9 】

ここで、レイアウト設定項目について簡単に説明しておく。設定される項目の例を挙げると次のようなものがある。

（１）印刷方法：片面 / 両面 / 製本のいずれかが指定される。片面および両面は周知の通りである。製本は、印刷された用紙を 2 つ折りにしてとじ合わせるだけで本の体裁になるように印刷する方法である。製本印刷が指定された場合には、2 つ折りにする単位として、1 部分まとめて 2 つ折りにする方法と、所定枚数を指定し、所定枚数ごとに 2 つ折りに

10

20

30

40

50

してからそれを重ね合わせてとじる方法とが指定できる。この2つ折りにする単位を製本単位と呼ぶ。

#### 【0120】

製本印刷の場合、例えば2枚の出力用紙を重ね合わせて2つ折りにすることで製本するために、アプリケーションで作成された論理ページ順に印刷することはできない。製本された状態で右乃至左から（これは別途指定される）ページを繰ることで、論理ページ順にページが配置されるよう、予め論理ページの出力順、すなわち、どの物理ページにどのようにどの論理ページを配置するかを決定しておく。論理ページの順序は、排紙がフェイスアップかフェイスダウンかによっても異なる。

#### 【0121】

製本印刷は、ページの順序を考えずに形式だけを考えれば両面2アップ印刷に相当するために、論理ページ4ページ分が1枚のシートに印刷される。したがって必要な枚数Sは、 $S = \text{論理ページ数} / 4$ （少数部切り上げ）によって与えられる。例えば排紙方式をフェイスアップ、製本単位をS枚とした場合、第P番目の製本単位の第Q枚目のシートの表面（初めに印刷される面）には、第 $(4 \times (P - 1) + 2 \times Q - 1)$ 論理ページと第 $(4 \times (P - 1) + 4 \times S - 2 \times (Q - 1))$ 論理ページが、その裏面には第 $(4 \times (P - 1) + 2 \times Q)$ 論理ページと第 $(4 \times (P - 1) + 4 \times S - 2 \times Q - 1)$ 論理ページが配置される。フェイスアップの場合には、裏面と表面とを入れ替えればよい。

（2）製本開き方向：見開きの方向を示し、上開き、右開き、左開きが指定できる。

（3）製本単位：前述したとおり、2つ折りにする単位を示す。

（4）ページレイアウト：Nアップ印刷と呼ばれる、N論理ページをシートの1面に納めるレイアウトや、ポスター印刷と呼ばれる、1論理ページを複数のシートに分割して印刷するレイアウトを指定できる。

（5）フィニッシング：印刷後の処理を指定できる。例えば、インサータと呼ばれる外付けの装置により、印刷したシートとは別途供給されるシートを表紙として挿入することができる。

（6）給紙切り替え：給紙の仕方を指定する。例えば、中差しと呼ばれる指定を行うと、2つの給紙口を用いて、一方の給紙口から供給されるシートに印刷し、他方の給紙口から供給されるシートを印刷されるシートの間に挿入して排出する。すなわち、2つの給紙口から交互にシートを使用する。

#### 【0122】

レイアウトとして指定できる項目には以上のようなものがある。

#### 【0123】

次に、ステップS2202において論理ページ情報が取得される。論理ページとは、アプリケーションプログラムなどで作成されたデータにおけるページであり、Nアップ印刷が指定された場合には、複数の論理ページがひとつの物理ページ、すなわち1枚のシートの片面に印刷されることになる。この論理ページ情報は、図14に示した通りである。

#### 【0124】

ステップS2203では、ステップS2201およびステップS2202において取得した情報に基づいて、ページテンプレートを描画する。ページテンプレートとは、レイアウトに応じた各物理ページの枠組みであり、指定された用紙サイズや片面/両面/製本の指定、縦長/横長などのレイアウトに対応したものが描画される。ただしポスター印刷が指定されている場合には組み合わせた状態がプレビュー表示されるために、この限りではない。

#### 【0125】

次にステップS2204で、プレビュー表示される各ページに付されるページ番号を描画する。ここでは、レイアウトに応じて論理ページあるいは物理ページ順にページが付される。これにより、利用者は印刷プレビュー画面上で、レイアウトに応じた正確なページ番号を見ることができる。

#### 【0126】



ステップS 2 2 0 5では、各ページテンプレートに対応して、論理ページを描画する。ここでは、図10乃至図14に示したジョブ出力用設定ファイルが参照され、ひとつの物理ページ上に、ジョブ出力用設定ファイルに登録された設定に従って論理ページを描画する。描画される論理ページの間データは、図14に示した論理ページ情報を参照して獲得される。

#### 【0127】

最後に、ステップS 2 2 0 6において、総ページ数あるいは必要枚数が描画される。総ページ数とは論理ページ数であり、必要枚数とは出力される用紙の枚数である。

#### 【0128】

(ページテンプレート描画)

図23は、図22のステップS 2 2 0 3の詳細を示すフロー図である。ステップS 2 3 0 1においてレイアウト設定を取得し(カッコ書きなのは図22のステップS 2 2 0 1でレイアウトを取得しているためである)、ステップS 2 3 0 2, ステップS 2 3 0 3で印刷方法判定する。製本印刷であればステップS 2 3 0 4で製本印刷用のページテンプレートを取得し、両面印刷であればステップS 2 3 0 9で両面印刷用のページテンプレートを取得する。

#### 【0129】

片面印刷であれば、ステップS 2 3 0 6で中差し印刷であるか判定する。中差し印刷とは、出力される印刷済みの用紙の間に別途供給される用紙を挿入して排出する印刷方法で、例えばオーバーヘッドプロジェクタ用の透過原稿を印刷する場合などに利用される。中差し印刷であれば、中差し印刷用のページテンプレートをステップS 2 2 0 7で取得し、中差し印刷でなければステップS 2 3 0 8で片面印刷用のページテンプレートを取得する。

#### 【0130】

最後に、ステップS 2 3 0 5で取得したページテンプレートのデータに従ってページテンプレートを描画する。

#### 【0131】

(ページ番号描画)

図24は、図22のステップS 2 2 0 4の詳細を示すフロー図である。ステップS 2 4 0 1においてレイアウト設定を取得し(カッコ書きなのは図22のステップS 2 2 0 1でレイアウトを取得しているためである)、ステップS 2 4 0 2, ステップS 2 4 0 3で印刷方法判定する。製本印刷であればステップS 2 4 0 4で製本印刷用にページ番号を描画し、両面印刷であればステップS 2 4 0 6で両面印刷用にページ番号を描画する。片面印刷であれば、ステップS 2 4 0 5で片面印刷用のページ番号を描画する。

#### 【0132】

(論理ページ描画)

図25は、図22のステップS 2 2 0 5の詳細を示すフロー図である。ステップS 2 5 0 1においてレイアウト設定を取得し(カッコ書きなのは図22のステップS 2 2 0 1でレイアウトを取得しているためである)、ステップS 2 5 0 2, ステップS 2 5 0 3で印刷方法判定する。製本印刷であればステップS 2 5 0 4で製本印刷用に論理ページを描画し、両面印刷であればステップS 2 5 0 6で両面印刷用に論理ページを描画する。片面印刷であれば、ステップS 2 5 0 5で片面印刷用の論理ページを描画する。なお、論理ページの描画においては、ジョブ出力用設定ファイルおよび論理ページ情報に従って論理ページを描画するために、印刷方法に応じた場合分けを行わないような処理とすることもできる<プレビュー表示におけるジョブあるいはページの選択処理>

以上、ストアされた印刷ジョブの編集や結合およびそれに伴うプレビュー表示について説明した。ストアされたジョブのうちから所望のジョブについて編集や結合が指定されて、対象ジョブのリストとそのプレビュー画面が表示されると、利用者はその画面においてジョブの順序変更やページの削除などの操作を行うことができる。この際に、操作の対象となるページやジョブが選択されるが、その際の操作および表示について次に説明する。

#### 【0133】

10

20

30

40

50

## &lt; ページ選択 &gt;

図29はストアされたジョブから6つのジョブを対象ジョブとして選択し、その結合を指定した際の対象ジョブおよびプレビュー画面の例を示す図である。図29においては、プレビュー画面からページ2901が選択されており、選択された状態であることがページ内に表示される太枠で示されている。実際の画面上では、この太枠は赤など鮮明な色で表示され、利用者は選択されたページであることをひとめで識別することができる。あるページが選択されると、選択されたページを含むジョブも識別可能に表示される、図29においては、ページ2901を含む印刷ジョブ2902にも太枠が付けられる。この太枠も表示上では赤など鮮明な色で表示され、容易に識別可能となっている。

## 【0134】

10

図27は、図29で示したようにプレビュー画面上であるページが選択された場合に、プレビュー表示および対象ジョブリスト表示に対する表示処理の手順を示したフローチャートである。まず、ステップS2701において、選択されたページに枠を付して表示する。そして、そのページの論理ページIDを図14の論理ページ情報から獲得し、その論理ページIDからその論理ページを含むジョブを特定する。論理ページIDは、ジョブのIDとそのジョブ中における各ページの固有のIDとを組み合わせられたものであるため、論理ページIDからそれが含まれるジョブを特定することは容易である。

## 【0135】

ステップS2702においては、選択された論理ページを含むジョブに枠を付して図29のように表示する。もちろん、複数のページが選択された場合には、選択された各ページについて、選択されたページを含むジョブが識別可能に表示される。

20

## 【0136】

図31は、プレビュー画面から複数のページを選択した場合の表示例である。図31においては、ページ3101とページ3102とが選択されており、枠が表示される。また、それぞれのページを含むジョブ3103とジョブ3104にも、枠が付けられている。

## 【0137】

このように表示することで、ページとジョブとの対応関係を、ページを選択することで判定できる。このために、利用者は、或ページを選択して削除等の操作を行う際に、その操作がどの対象ジョブに対して影響を及ぼすか知ることができる。

## 【0138】

30

## &lt; ジョブ選択 &gt;

図30は、ストアされたジョブから6つのジョブを対象ジョブとして選択し、その結合を指定した際の対象ジョブおよびプレビュー画面の例を示す図である。図30においては、対象ジョブリストからジョブ3001が選択されており、選択された状態であることが太枠で示されている。実際の画面上では、選択されたジョブは反転表示などで認識しやすく表示され、利用者は選択されたジョブであることをひとめで識別することができる。あるジョブが選択されると、選択されたジョブに含まれるページも識別可能に表示される、図30においては、ジョブ3001に含まれるページ3002～3004にも太枠が付けられる。この太枠も表示上では赤など鮮明な色で表示され、容易に識別可能となっている。

## 【0139】

40

図28は、図30で示したように対象ジョブリストからジョブが選択された場合に、プレビュー表示および対象ジョブリスト表示に対する表示処理の手順を示したフローチャートである。まず、ステップS2801において、選択されたジョブを識別可能に表示する。そして、そのジョブのIDから、図10の物理ページ情報を獲得し、その物理ページ情報から図12の物理ページ情報を参照して各物理ページに含まれる論理ページIDを獲得し、その論理ページIDに対応するページを特定する。

## 【0140】

ステップS2802においては、選択されたジョブに含まれる全ページに枠を付して図30のように表示する。もちろん、複数のジョブが選択された場合には、選択された各ジョブについて、選択されたジョブに含まれるページが識別可能に表示される。

50

## 【0141】

図32は、対象ジョブリストから複数のジョブを選択した場合の表示例である。図32においては、ジョブ3201とジョブ3202とが選択されており、それらが識別可能に表示される。また、それぞれのジョブに含まれるページ3203～3106にも枠が付されて表示される。

## 【0142】

このように表示することで、ページとジョブとの対応関係を、ジョブを選択することでも判定できる。このために、利用者は、或るジョブを選択してジョブの順序変更や削除等の操作を行う際に、その操作がどのページに対して影響を及ぼすか知ることができる。また、ジョブの区切り目がページにおいてどこに位置するのかを簡単に知ることができる。

10

## 【0143】

## 【他の実施の形態】

なお、本発明は、複数の機器（例えばホストコンピュータ、インタフェイス機器、リーダ、プリンタなど）から構成されるシステムに適用しても、一つの機器からなる装置（複写機、プリンタ、ファクシミリ装置など）に適用してもよい。

## 【0144】

また、本発明の目的は、前述した実施形態の機能を実現する、図19乃至図25および図27、図28の手順を実現するプログラムコードを記憶した記憶媒体を、システムあるいは装置のコンピュータ（またはCPUやMPU）が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読み出し実行することによっても達成される。

20

## 【0145】

この場合、記憶媒体から読み出されたプログラムコード自体が前述した実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。

## 【0146】

プログラムコードを供給するための記憶媒体としては、例えば、フロッピーディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、CD-R、磁気テープ、不揮発性のメモリカード、ROMなどを用いることができる。

## 【0147】

また、コンピュータが読み出したプログラムコードを実行することにより、前述した実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼動しているOS（オペレーティングシステム）などが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれる。

30

## 【0148】

更に、記憶媒体から読出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書き込まれた後、そのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるCPUなどが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれる。

## 【0149】

40

## 【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、ページとジョブとの対応関係を、ページを選択することで判定できる。このために、利用者は、或ページを選択して削除等の操作を行う際に、その操作がどの対象ジョブに対して影響を及ぼすか知ることができるという効果がある。

## 【0150】

あるいは逆に、ページとジョブとの対応関係を、ジョブを選択することでも判定できる。このために、利用者は、或るジョブを選択してジョブの順序変更や削除等の操作を行う際に、その操作がどのページに対して影響を及ぼすか知ることができる。また、ジョブの区切り目がページにおいてどこに位置するのかを簡単に知ることができるという効果がある

50

。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施例を示す印刷制御装置の構成を説明するブロック図である。

【図 2】プリンタが接続されたホストコンピュータの典型的なプリントシステムの構成を示すブロック図である。

【図 3】アプリケーションからの印刷命令をプリンタ制御コマンドに変換する前に、一旦中間コードスプールするプリントシステムの構成を示すブロック図である。

【図 4】本発明におけるプリンタについて説明した図である。

【図 5】スプーラ 302 における処理を示したフローチャートである。

【図 6】スプールファイルマネージャ 304 における印刷制御について示したフローチャートである。 10

【図 7】デスプーラ 305 における処理を示したフローチャートである。

【図 8】印刷設定画面の一例である。

【図 9】印刷スプール設定画面の一例である。

【図 10】スプールファイルマネージャ 304 からデスプーラ 305 に対して物理ページの印刷要求を行う際に渡すデータ形式の一例を示した図である。

【図 11】スプールファイルマネージャ 304 からデスプーラ 305 に対して物理ページの印刷要求を行う際に渡すデータ形式の一例を示した図である。

【図 12】スプールファイルマネージャ 304 からデスプーラ 305 に対して物理ページの印刷要求を行う際に渡すデータ形式の一例を示した図である。 20

【図 13】スプールファイルマネージャ 304 からデスプーラ 305 に対して物理ページの印刷要求を行う際に渡すデータ形式の一例を示した図である。

【図 14】スプールファイルマネージャ 304 からデスプーラ 305 に対して物理ページの印刷要求を行う際に渡すデータ形式の一例を示した図である。

【図 15】設定変更エディタ 307 における設定変更処理について示したフローチャートである。

【図 16】スプールファイルマネージャ 304 でスプールされている印刷ジョブ一覧を表示する画面の一例である。

【図 17】プレビューア 306 の画面の一例である。

【図 18】設定変更エディタ 307 の画面の一例である。 30

【図 19】アプリケーションプログラム等で作成したデータをストア指定をして印刷させた場合のフローチャートである。

【図 20】図 19 のステップ S 1903 の詳細を示すフロー図である。

【図 21】ジョブリストからジョブが選択された状態で編集ボタンや結合ボタンが操作された際の処理手順のフローチャートである。

【図 22】ジョブリストからジョブが選択された状態で編集ボタンや結合ボタンが操作された際にプレビュー画面を表示する手順のフローチャートである。

【図 23】図 22 のステップ S 2203 の詳細を示すフロー図である。

【図 24】図 22 のステップ S 2204 の詳細を示すフロー図である。

【図 25】図 22 のステップ S 2205 の詳細を示すフロー図である。 40

【図 26】ジョブリストの表示例を示す図である。

【図 27】プレビュー画面上で或るページが選択された場合の表示処理の手順を示したフローチャートである。

【図 28】対象ジョブリストから或るジョブが選択された場合の表示処理の手順を示したフローチャートである。

【図 29】プレビュー画面上で或るページが選択された場合の対象ジョブリストおよびプレビュー画面の例を示す図である。

【図 30】対象ジョブリストから或るジョブが選択された場合の対象ジョブリストおよびプレビュー画面の例を示す図である。

【図 31】プレビュー画面から複数のページを選択した場合の表示例の図である。 50

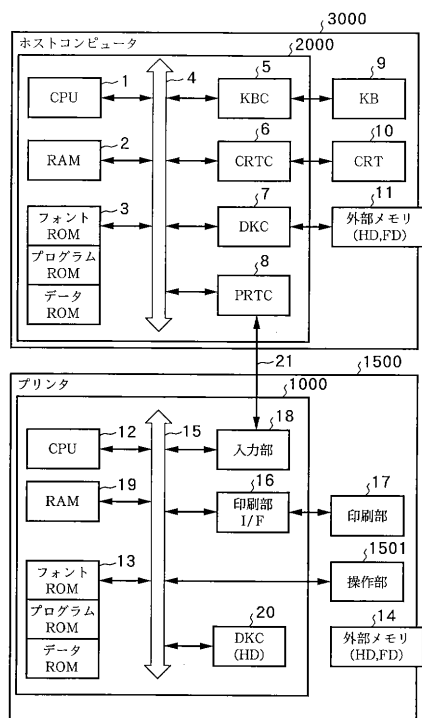
【図 3 2】対象ジョブリストから複数のジョブを選択した場合の表示例の図である。

【符号の説明】

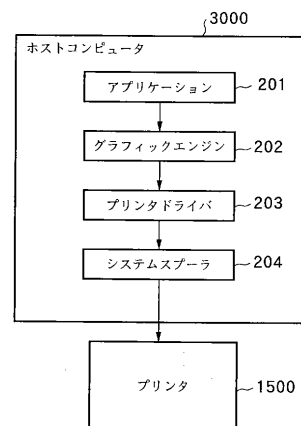
- 1 CPU
- 2 RAM
- 3 ROM
- 4 システムバス
- 1 2 CPU
- 1 3 ROM
- 1 9 RAM
- 3 0 0 0 ホストコンピュータ
- 1 5 0 0 プリンタ

10

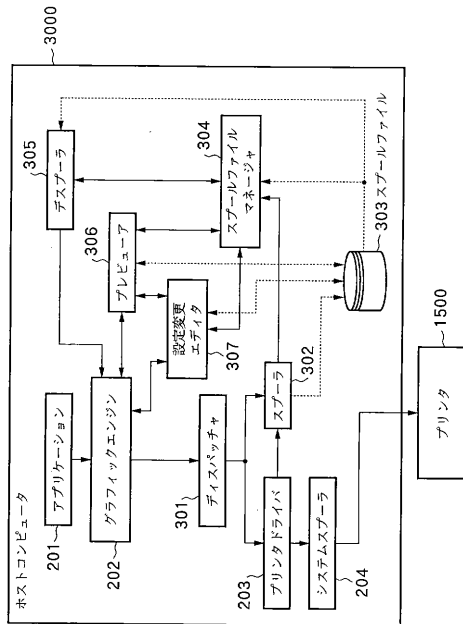
【図 1】



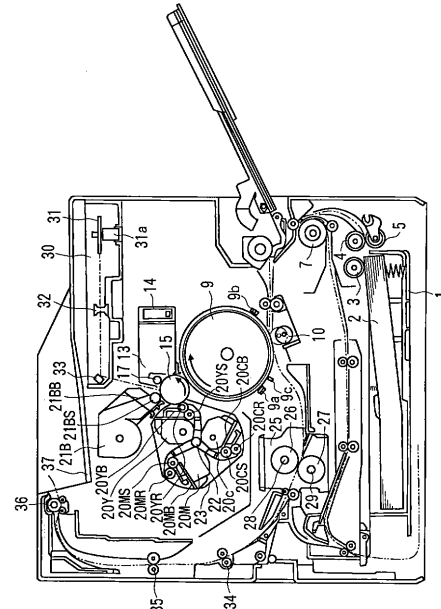
【図 2】



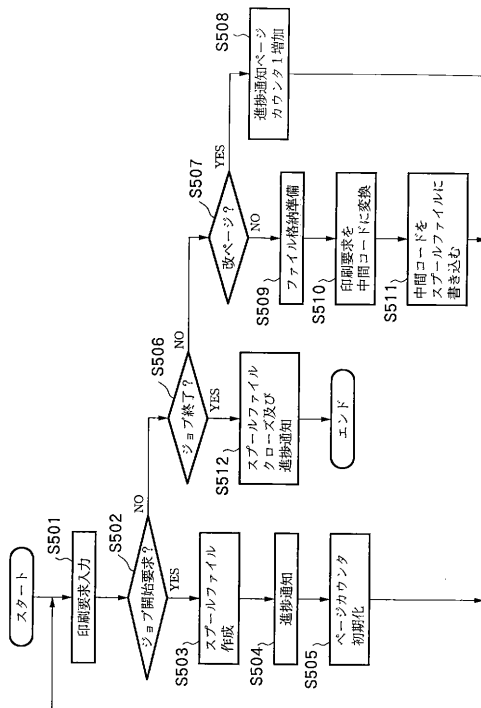
【 図 3 】



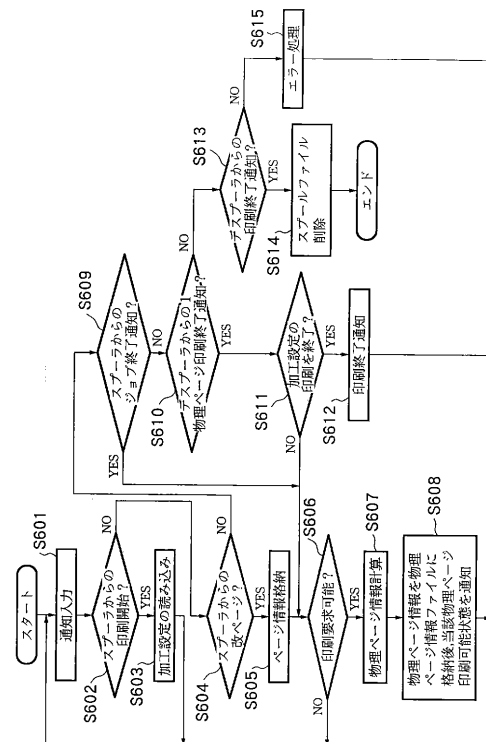
【 図 4 】



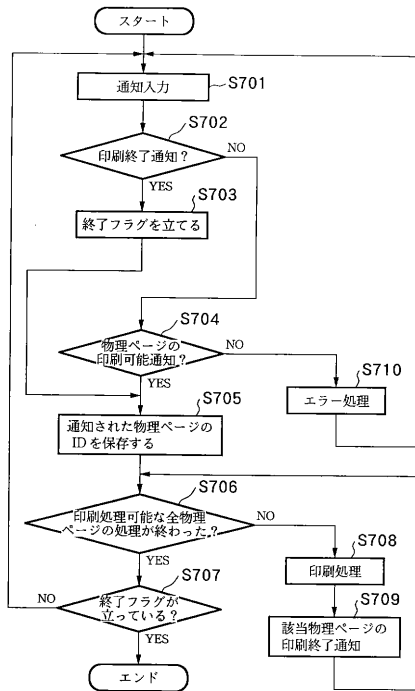
【 図 5 】



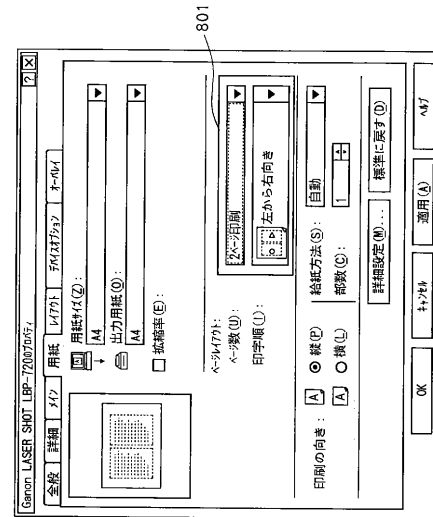
【 図 6 】



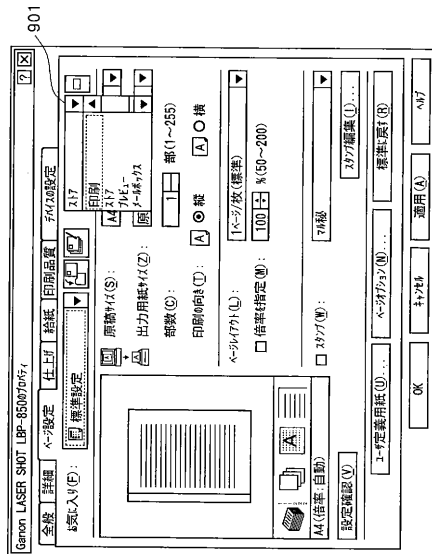
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

ジョブを識別可能なID	1001
ジョブ設定情報	1002
ジョブの物理ページ数	1003
一つ目の物理ページ情報	1004
二つ目の物理ページ情報	1005
...	1006
最後の物理ページ情報	1007

【図 11】

全物理ページ数	1101
全論理ページ数	1102
部数	1103
部単位印刷	1104
フィニッシング情報	1105
付加印刷情報	1106

【図 1 2】

物理ページ番号	1201
物理ページ設定情報	1202
物理ページに割り付ける論理ページ数 n	1203
一つ目の論理ページの情報	1204
二つ目の論理ページの情報	1205
....	1206
n 個目の論理ページの情報	1207

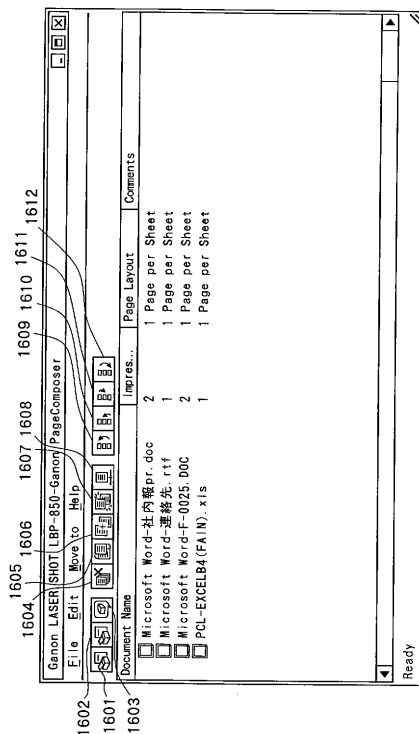
【図 1 3】

物理ページ上への論理ページの配置順	1301
両面印刷の表面か裏面か	1302
カラーページかモノクロページか	1303
付加印刷情報	1304

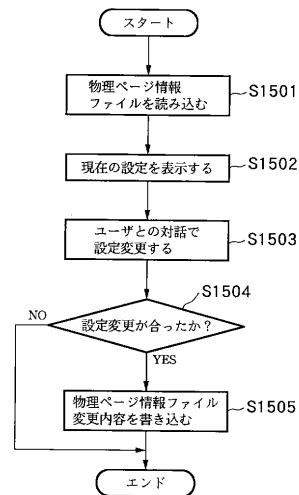
【図 1 4】

論理ページを識別可能な ID	1401
論理ページ番号	1402
フォーマット情報	1403

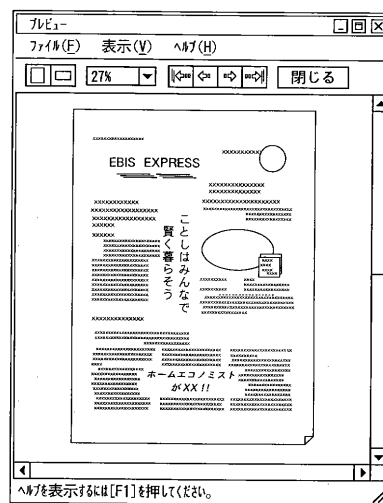
【図 1 6】



【図 1 5】

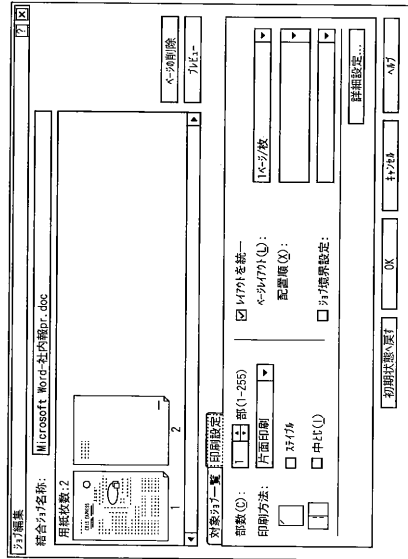


【図 1 7】

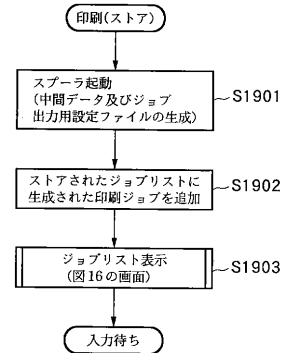




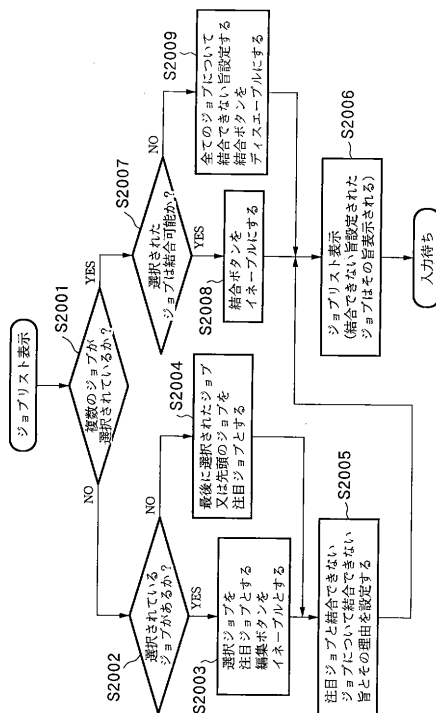
【図 18】



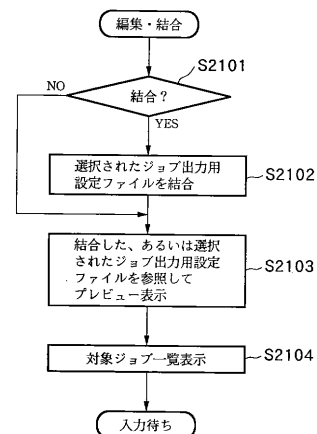
【図 19】



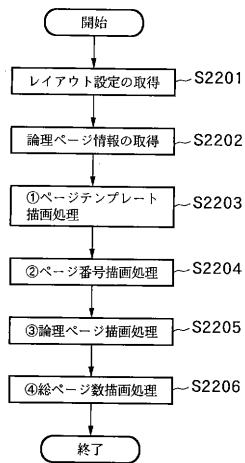
【図 20】



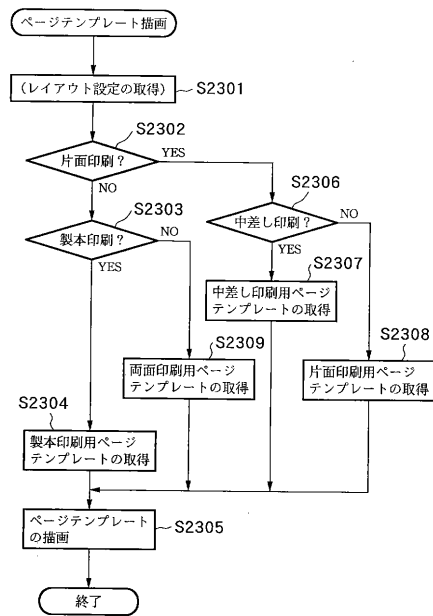
【図 21】



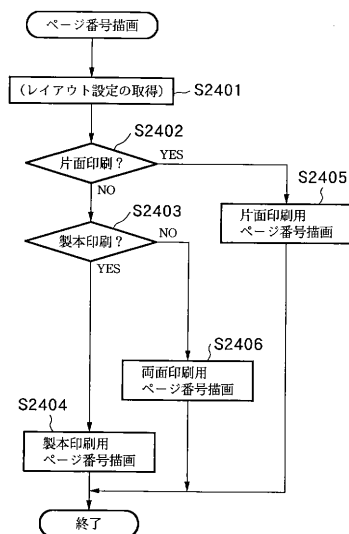
【図 22】



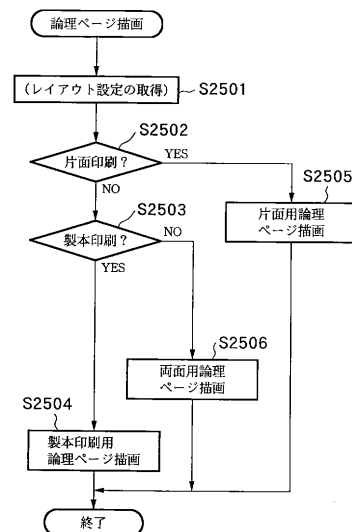
【図 23】



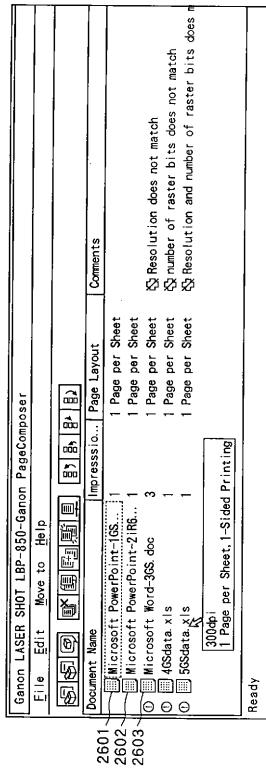
【図 24】



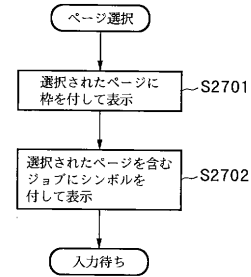
【図 25】



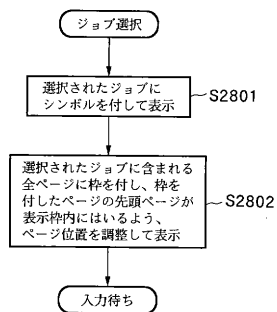
【図 26】



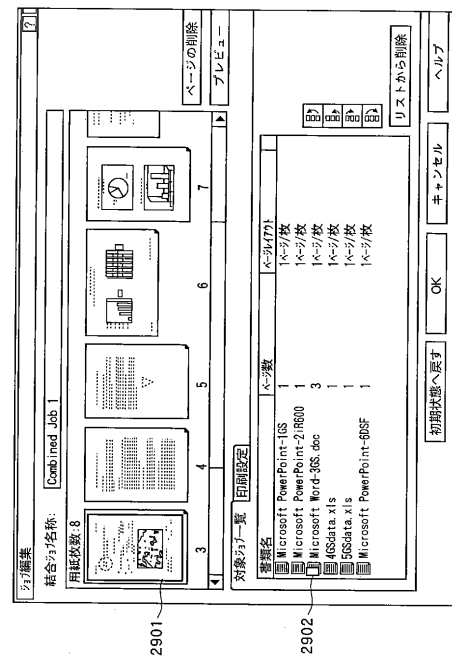
【図 27】



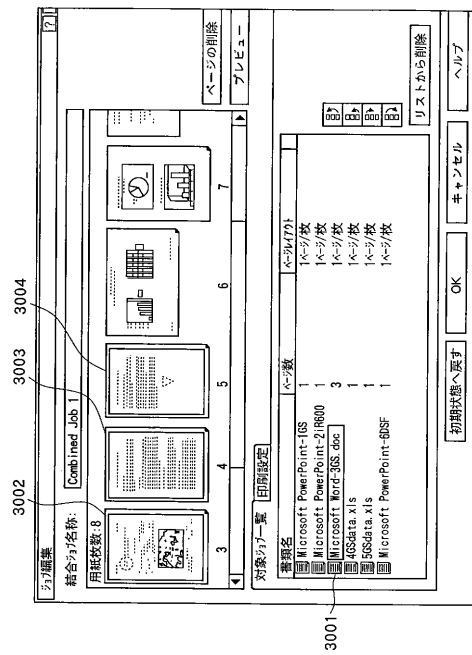
【図 28】



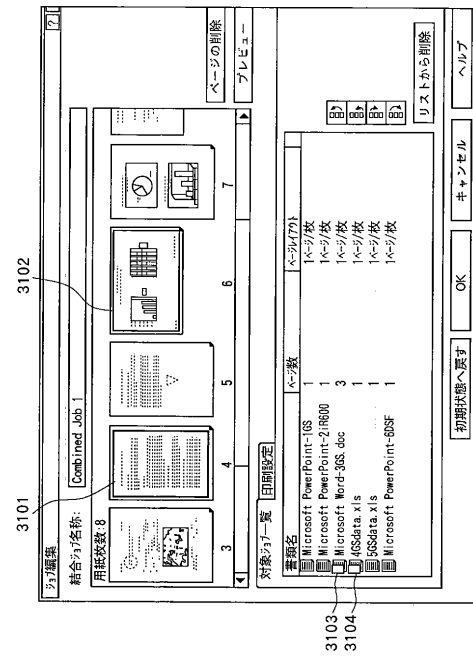
【図 29】



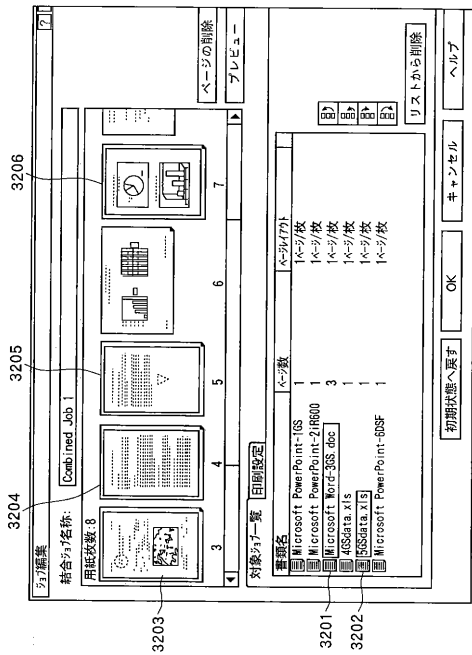
【図 30】



【図 31】



【図 32】



---

フロントページの続き

(72)発明者 森 安生

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

審査官 山崎 慎一

(56)参考文献 特開平10-187364(JP,A)

特開平08-258380(JP,A)

特開平08-278865(JP,A)

特開平10-016344(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl.<sup>7</sup>, DB名)

G06F 3/12

B41J 29/38